

- ・ 病院、薬局実習のお互いの情報交換
 - ・ 病院規模に応じたワークショップ
 - ・ 病院実習(または薬局実習)で行うSGDの具体的なテーマについて
 - ・ 病院実務実習での、学生さんへの具体的な指導方法。薬剤管理指導業務、手法方法など。
 - ・ 病院薬剤師としての演習
 - ・ 病院薬剤師と開局薬局薬剤師では日々実施している業務が異なるため、全体のワークショップに参加した後、後日、それぞれの分野に分かれたワークショップかを開催して頂きたいと考えます
 - ・ 病院薬剤師のみ、調剤薬局薬剤師のみで集めてもらい実習カリキュラムの検証等をしてほしい。
 - ・ 方略の解説。具体的に実習生に対して教える項目
 - ・ 模擬実務実習をやれたら、もっと参考になれたと思う。WSこそ参加型にして欲しい。
 - ・ 模擬薬局・病院薬局での指導薬剤師・学生の実習の様子(DVD等)から、問題点を抽出し対策するような講義
 - ・ 問題点 問題解決方法をより詳しく
 - ・ 薬学生(実習生)はどこまで勉強して、理解しているのか
 - ・ 薬学生の指導の仕方
 - ・ 薬学部6年制と薬学部増設の理屈、薬剤師の需要予測と必要性
 - ・ 薬局・病院別のプランニング。実務に即した詳細な案が出たと思う。
 - ・ 薬剤管理指導など、各施設での評価や実施内容にバラつきが大きいと思われることについての標準化の指導
 - ・ 薬剤師の資質向上のためのプログラム
 - ・ 様々な職場の薬剤師が集まっているので、具体的にやっている内容などの情報交換をする場が欲しい。
 - ・ 例えば、1日目は同職(病院薬剤師など)で、2日目は今回のように多職種でのワークショップをやって欲しい。
 - ・ 例えば、モデルケースでは無く、実際に実習(現在のコアカリキュラムに従った物では無くても構わない)を受け入れている施設から個人情報に触らない範囲で事例を出していただき、それについて問題点、解決法を議論する方が良かったのではないかと。モデルケースではどうしても具体的なイメージがわきにくく感じる。
 - ・ 例えば、現在の薬学教育上の課題などを提示して、各グループ毎に立場を決定し、代表者がディスカッションする
 - ・ 六年制大学の授業の内容
- 【記述 50】
4. ワークショップ全体について
- (3)ワークショップに参加して、改善すべき点、期待はずれだったこと、こんなことをやって欲しかった、こんな情報が欲しかったなど、自由にご意見をお書き下さい。
- ⑤ その他
- ・ グループの大学教員が実務実習自体に反対であったため意見を交換する気にならなかった
 - ・ “①ワークショップは、雰囲気作りが重要かと思いますが、時間の制約が多く、楽しくて自由な雰囲気がない。
 - ・ ②教育目標、学習目標など、自主的に勉強したり、他の医学教育系WSに出て、すでに得られていたものが、多くあまり、得るものがありませんでした。そういう意味で、当時の私にとっては、ニーズが満たされませんでした。”
 - ・ 1回だけでは理解が不十分だと思います。
 - ・ 1回参加しただけでは実際の実務実習に何をどう生かして良いのかわかりませんでした。その後タスクフォースとして2回参加する機会があったので、ようやく意図を理解することができたように思います。
 - ・ 2日間でスケジュールすべてを押し込むのは無理があるような印象。
 - ・ 2日間では、時間が足りなかったと思います。
 - ・ 2日間の内容が盛りだくさんでした。
 - ・ 2日間続けての日程は大変だった
 - ・ 4年前に経験しているので、具体的なことはほとんど忘れてしまいましたが、実習内容を組み立てるうえで、自分の経験だけでやる不安を解消することができたように思います。
 - ・ 6年前なので詳細な内容は忘れてしまいました
 - ・ CBT、OSCE 以外で、大学側が学生を即戦力とすべくどのような工夫をされているのか、各大学の情報を比較検討して教えてほしい。
 - ・ H19年のワークショップ参加時点で、実習の目的、内容などほとんど全員が理解していない状況で、カリキュラムプランニングはかなり難しかった。しかし、2日間で実習について一からじっくり考えることができたのは良かった。
 - ・ WSそのものの内容はよいが、実務実習にむけてとしたらあまり活用できるものではないように思う。
 - ・ WSでやっている内容を、WSに参加していない方々にも広報していったよいのではないかと感じました。
 - ・ WSの内容が具体的にどう役立っているかは実感できないが、間違いなく自分の考え方・行動の構成要素となっている。
 - ・ かなり記憶が薄れているので、具体的にどうこうといえない。このようなアンケートをとるならもう少し早くしてほしい。
 - ・ カリキュラム作成者、WS運営者、大学教員、現場薬剤師各々の立場での感覚のズレが再認識された。
 - ・ コンセンサスゲーム(砂漠で遭難)は面白かったが、TV等でも有名になっているので解答漏れが懸念される
 - ・ スケジュール的に他の(グループの)参加者との情報交換の時間がほとんど持てなかった。
 - ・ タスクの方の関わり方がチームによってそれぞれ違うらしいということだった(強引に導く方と見守る方)
 - ・ タスクフォースの助言がとても参考になった。
 - ・ タスクフォースを固定せずに多くの指導薬剤師に担当させ、毎年違う者に担当させて欲しい
 - ・ とてもためになったのでより多くの薬剤師が参加できればいいと思った。
 - ・ とても有意義でした。たくさんの方が受講ができるよう回数を増やして欲しい。
 - ・ プレインストーミングは論文上は必ずしも優れているという結果は出ていません。PNPも同様だと思います。
 - ・ まず作業から入り、ひととおり終了して解説に入り、それまでやってきた作業内容の目標を理解できたので、なるほどと思うところが多かった。
 - ・ まだまだ大学側と医療現場側の相互理解に乏しいようです。交流が必要と感じました。
 - ・ もし薬剤師の臨床経験のない教員の方で大学での学生実習指導担当になる方がいらしたら、患者さんのベッドサイド実習を体験していただくと、大学での教育がよりわかりやすいかも知れません。
 - ・ やらされ感が高い受講者もいて、スケジュール通りいかない部分があった。
 - ・ ワークショップでは、時間が限られていたため、もう少し長

- めに SGD を行いたかった。
- ・ワークショップでは、自分たちで一から作成したが、実際の SBOs は項目が多くありすぎて 1 つ 1 つのカリキュラムをじっくり考える暇もなく実習が始まってしまった。
 - ・ワークショップと実習との関連性は頭ではわかるが、実践的ではないので活用法が難しい。
 - ・ワークショップにおける、今回のアンケートの内容は、ほとんど覚えていませんでした。
 - ・ワークショップに参加したときはまだコア・カリキュラムが公開されていること、その内容を知らない人がほとんどであり、実習自体が始まっていなかったため、よくわからない状態で終わってしまったという印象があり、実習が始まってから参加する人たちとは少し理解度に差があるのではないかと危惧する。
 - ・ワークショップに参加してから、実務実習までに期間があり、学習したことを忘れてしまったことが多く、繰り返し講義を聴くことができれば良かった。
 - ・ワークショップに参加してから時間がたってしまうと、かなりの部分で忘れているもしくは変更されている部分もあるため 2~3 年に一度くらいはフォローアップ研修などあると良いのでは無いでしょうか？
 - ・ワークショップの機会が少ない
 - ・ワークショップの参加時期と受け入れ時期に期間があいていたので、参加して得られたことの 100% を出し来てていないような気がします。定期的に学習できる場があるとありがたいです。
 - ・ワークショップを経験してから実際に学生を受け入れるまで 2 年間あったので、モチベーションの低下がありました
 - ・ワークショップ参加から数年経過しているため、もう少し早い時期に調査ができるとよりよかったですと思います
 - ・ワークショップ中はかなり有意義であったが、その後のフォローが少ない
 - ・ワークショップ中はかなり有意義であったが、その後のフォローが少ない
 - ・ワークショップに参加したものの参加しただけ終わっていて、活用できていないことを痛感しています。
 - ・何をするのか分からないままスタートした。それが良かったのかもしれないが、レポートの提出もありもう少し説明をしてほしい
 - ・開局薬剤師と病院薬剤師とで考え方やとらえ方が違うことがわかったので、もう少し交流を深めれば良かったと思います。
 - ・開催回数が限られ希望者が参加出来ない。
 - ・開催回数を増やしていただきたい。
 - ・開催場所、回数などをもう少し増やし、ワークショップがもう少し広がることを希望します。
 - ・学習方略や SBOs などはずでに設定されているので、丸 2 日間もそこを議論しなくても良いのではないのでしょうか。
 - ・学生に何を研修させるかをもっと明確にしてほしい
 - ・学生の能力が思った以上に、低く目標とする内容に到達できないことを知っておくべきであった
 - ・学生をすでに受け入れている施設に対して、実務実習の実施体制や内容に対する説明は不要。
 - ・学生を交えたワークショップを行い、モチベーションの向上につなげればよりベター。
 - ・学生実習を実際にうけてからワークショップに参加してみたかったです。
 - ・簡略化したワークショップで、多くの薬剤師に受講してもらう。
 - ・期待以上に得るものがありました。
 - ・期待以上の内容で、教育についての教育を受けることの重要性を学ばせていただけた。
 - ・議題が病院系の場合は薬局の方との話し合いが難しかった。
 - ・共用試験の現場を拝見させていただきたい
 - ・教育評価の具体的な方法をもっと学ぶことができればよかった。
 - ・教育理論として、こういう考え方があるのかという理解はできた。
 - ・具体的にカリキュラムの指示をされるのでなければ、以前の実習とそう変わらなくなる。あまり参加が参考にはならない。それがないと認定をとれないような内容ではない。
 - ・現場の薬剤師のチーム医療での活躍および社会的地位の向上がなければ、学生のモチベーションはあがらない。
 - ・現状でよいと思います。
 - ・講義に続いての一度だけの演習では身につかないことが多いので、時間が許せば複数回行っていただきたい。
 - ・講師、スタッフの方が非常に熱心でよかったです。機会があれば、もう一度参加してみたいです。
 - ・講習時間が長く大変でした。
 - ・今までも実習生の受け入れを長年させて頂いてきましたが、大学側からのフィードバックが少なく、手応えを感じる事があまりなかったように思います。大学からのより一層のフィードバックを希望します。
 - ・今後も学生教育に取り入れ、重要度を上げていってほしい。
 - ・最初のうちは何をしているかわからないままタスクフォースの指示のままに行動していて意図がみえなかった
 - ・最初ワークショップの意味が十分理解出来なかったため戸惑いがあったこと。
 - ・細かい要望などについては、すでに時期が経ち過ぎてしまい挙げるのが困難です。
 - ・参加したくても順番がなかなか回ってこない。大勢の人が参加できるようにしてほしい。
 - ・参加したワークショップの二日間ではとても理解しきれないようであり、タスクフォースとして参加して理解できた。
 - ・参加して大変役に立った
 - ・参加する前には全く内容がわからなかったで、こんなことをするんだというのは始めてからわかった。
 - ・参加者には事前に討議してほしい内容を 問題提起してくる条件とする。(原則として)
 - ・指導薬剤師の資格はただの飾りではなく、きちんと実習生に指導ができるという『証』だと思っています。今後は資格更新コースを設けていただきたい。(3年に一度くらい)
 - ・施設によりできることできないことのバラつきが大きい。できない部分をどうするかについての情報が欲しい。
 - ・事前にワークショップでする内容について理解しておきたかった。
 - ・時間がタイトで、詰め込んだ印象が強かったです。
 - ・時間に制限はあるとは思いますが、もう少し最初に教育についての基礎的なことを提供して欲しい
 - ・自己啓発として指導薬剤師認定を取らせようと考えているが、ワークショップ参加を希望しても参加できないスタッフがいる。ニーズに見合った数を開催してほしい。
 - ・実際に参加してみると期待以上のものでした。
 - ・実際に実務実習をしてみると現場の業務を指導することで精一杯です。WS でのグループワークの意味は何だったの

だろうと思ってしまうところがあります。また、WSを受講してから時間がたすぎ、その間のフォローがないためWSでの研修が生かされないのかも思われます。

- ・実際に他施設の方々と一緒にカリキュラムプランニングを行う体験ができて、とても新鮮で刺激を受けた。
- ・実際に薬学生を受け入れた後、様々な問題点が生まれていると思います。1回のみワークショップでなく、同様の問題点を持った指導薬剤師が集まって意見を交換しあう機会があればと思います
- ・実際の業務では、これほど時間をかける余裕はなく、実際的でない。もう少し短時間で処理できる方法を考えてほしい。
- ・実際の実務実習にどのように活用すればよいのか理解するのに時間がかかった
- ・実習生を受ける為のこちらの心構えと方針は理解できたと思われる。
- ・実務実習に際しては、市販の実習テキスト等も参考にしないと具体的指導に不安があった。
- ・実務実習を受け入れのモチベーションを上げる事には有用だった。
- ・主催者側の先生に「今度はこっち側の人間で参加だぞ」と言われたのがうれしかった。あまりやりたくはないが。。
- ・宗教的で参加自体がいやです
- ・十分な交流が図れて大変有意義でありました。
- ・十分有意義な講習会でした
- ・情報交換の場としては非常に役に立った。
- ・情報交換の場としては非常に役に立った。
- ・心身とも非常に疲れた2日間でしたが、充実した学習をすることが出来ました。
- ・心理学を用いたモチベーション向上の方法論講義が欲しいです
- ・振り返りという点で、1年後の提出課題とかがあってもよい。
- ・世話人の先生方は、すごく勉強されていると感じました。
- ・昔のことで記憶がよみがえりにくい。いろんな体験をすることは良いが、義務意識で受講していた教員が多かった。
- ・専門用語などの内容が当時はわからないことが多かった。
- ・全てのカリキュラムを実施するよう(座学でよいので)ワークショップで言われたが、実施は困難。
- ・早朝からの開始にもかかわらず交通の便が悪く、往復に時間がかかった。もう少し場所を考えて欲しい。
- ・他スタッフ(タスクなど)と一緒にお昼をとる
- ・他施設の方ともしっかり情報交換をする時間を設けていただきたかった。
- ・他職種での意見もいろいろ聞いてみたい。
- ・大学、病院、調剤薬局での実習内容、実習風景の現状紹介。施設の規模、薬剤師数の違いで指導内容・指導法にどれほどギャップがあるのかなど。
- ・大学としては学生に何でも体験をさせて欲しいという意向が伝わった。
- ・大学と施設側の考え方に違いを感じた。
- ・大学教員の訪問で行った方が良い事などの具体例、例えば学生レポートのチェック方法など。
- ・大学側が現場に望んでいることが何か明確にしてほしい
- ・単に単位や指導薬剤師の資格を取得することを目的の人がいたのでなるべくそれを生かす目的の人をメンバーにいらしてほしい。
- ・地域による格差がある可能性がある。県単位での開催は

あまり好ましくないのではないかと。全国までではないにせよ、関東、東北ぐらいの5~6県で開催し、地域格差をなくす方法もあると考える。

- ・悩みなどを相談できる連携があればよい。
- ・必然的に各プロダクトが同じようなものになり、タスクフォースもそれに向けて導くので発想の多様性にかける。
- ・必要性がよくわからなかった
- ・評価の均一性
- ・病院・薬局と同じフィールドでよかったと思うが、新しくユニットを作成しカリキュラム別で、スモールグループディスカッションを行う機会もあればよかったのではないかと考えた。
- ・病院・薬局は実務をこなしながら教育の時間を生み出す必要があるのでは、できるだけ多くの指導者育成が必要であると思います。今後も引き続きワークショップの開催をお願いしたいと思います。
- ・病院と調剤薬局では指導内容が異なるため、同じワークショップでの実施は無理がある
- ・病院の限られた人員で、教育するには限度がある。
- ・病院や薬局の薬剤師と大学の教職員との考え方の差が大きいと感じた
- ・病院薬剤師・薬局薬剤師・大学教員それぞれの集まりでワークショップを行なって欲しい。
- ・病院薬剤師だけではなく他職種の方々の意見を聞いたことが大変参考になりました
- ・病院薬剤師のメンバーが多かった印象。職種の偏りはないほうがよい。
- ・病院薬剤師の参加比率の増加
- ・病院薬剤師の参加枠の拡大。
- ・部分的に役に立つ部分はあるが、全体としてワークショップで何を伝えたいのか、何を出来るようにしたいのかは今ひとつはっきりとしなかった。また、ワークショップとは直接関係ないがワークショップとは別に認定に必須とされている座学についても数年前のDVDの視聴であるなど、不満な点は多々ある。全体の印象としてはある程度実務実習が軌道に乗った時点でさらに裾野を広げるためのワークショップとしては(実体験の情報も集まっていると思われるため)一定の価値があると思われるが、実務実習がどのように運用されるか全く未知数の時点で概念論ばかりをたたき込まれても多くの参加者にとっては無意味ではないかと感じた。
- ・複数回のワークショップ受講を希望、日々の指導内容等テキストを希望
- ・複数人実習生がいなくてグループディスカッションができないが、どのように自分自身で発見してもらったら良いか?常に1対1の状況となりどうしても質問攻めのようにになってしまう。
- ・忘れてしまっていることもありアンケートは早めに。
- ・忙しかったのでもう少し時間に余裕をとってほしい。
- ・模範解答があり、それに近づくようにタスクフォースの方に誘導された感が強かった。(自分たちの力不足が原因なのだが)
- ・問題のある学生に対する対応の仕方等のレクチャー
- ・薬局薬剤師の先生の話も聞くことができて良かった。
- ・予想外に楽しくて、めんどろがっている同期にも勧めました。その人も面白かったと言っていました。
- ・養成人数を多数目指すのであれば、準備の負担が大きそうなので、WSの内容を簡約してもよいと思います。
- ・理想は高いが実際の実務実習とはかけ離れてしまうことがある。乖離をどう埋めるかが今後の課題です。

- ・理論を勉強する際には、薬局病院の区別なく行うことで親交が深まった。

【記述 51】

4. ワークショップ全体について

(4) 今後、ワークショップ受講者を対象とした地区単位、地域単位のアドバンスワークショップが開催される場合

④ どのような内容を希望されますか。ご自由にお答え下さい。

- ・「医療人教育改革」や「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成に向けて等の、聞いたその日からの現場での活かし方が曖昧な全体講演は不要です。1度しか聞かないので、それが後々まで理解していることは少ないし、業務にも生かせない。講演するなら、同じ内容を何度もやった方が良い。そうしないと残らないと思います。
- ・実際に現場で学生へ指導している薬剤師を対象としたより実践的な内容、②薬業連携について、③普段の学生指導におけるちょっとしたコツ
- ・1年目を終えての疑問や悩み様々あると思います。それを少しでも解決できるような内容を望みます。
- ・病院・薬局の現状(状況)に対する大学での講義内容の概要(紹介)②大学教員の病院・薬局の現状認識度と薬剤師の将来像について受講者とディスカッション
- ・2年目に入り自分自身の最初の緊張感がなくなってきているような気がする。施設によって教えていることが違うだろうし、確認の意味でも具体的な指導用法について知りたい。
- ・6年制を継続するなら既存のワークショップは薬剤師になる前に行うべき。つまり学生時代に(薬剤師であれば薬剤師を養成しなければいけないという倫理の中で考えるのであれば)このシステムを継続したいのであれば、最低でもワークショップの必要性が理解できない人間は薬学部を卒業(薬剤師国家試験受験資格を持たせる)させる必要性はないはずじゃない。
- ・6年制薬剤師教育(もしくは参加型実務実習)の現状と問題点をSGDする
- ・KJ法以外の技法を多種
- ・PBLのタスクフォース育成
- ・SBOsに対する実際の指導内容の検討会(少人数でのグループワーク)
- ・SBOsの中でも特に重要なSBOsはどこか?各施設で自由度があるのは仕方ないが、質が担保されるべき項目もあるはず。
- ・SBOの見直し、長期実務実習を実際に経験した薬剤師とのディスカッション
- ・SGDの進め方、題材の選び方など
- ・SGDの例
- ・SGDは、病院と薬局では実習内容が違うと思うので、それぞれに合った内容がよいと思います。
- ・SGD形式での事例検討
- ・WS一度では理解しきれないので、アドバンスWSを行うのはいいと思います。
- ・アドバンスならば職域ごとに分化させて行って欲しい。
- ・あまり堅いテーマではないもの。
- ・ある程度テーマを絞って、必要な職域が連絡し合う方が良くとおもいます。
- ・お互いに意見を交換し合い、立場を理解し合える。

- ・カリキュラムの到達点の決め方、評価の基準、トラブルの対処事例についての検討、カリキュラムの標準化への取り組み方など
- ・カリキュラムの内容や指導方法について、各施設で情報交換できればいいと思います。
- ・カリキュラム上、問題となった点を話せる機会を作ってほしい。
- ・カリキュラム通りに進まない場合、どのように対処すればよいか。原因別に対処法を聞いてみたい
- ・グループ実習のあり方
- ・コアカリキュラムにプラスする各施設の特色を盛り込んだカリキュラム編成について
- ・コアカリキュラム以外の取り組み、課題の内容、等具体的な実施例
- ・コーチング
- ・コーチング、ティーチングなど指導薬剤師のレベルアップが図れるような教育プログラム
- ・コーチングやティーチングなどの講義など
- ・コミュニケーションスキルとリーダーシップに関するもの。
- ・これまでの実務実習の問題点の抽出と解決方法の検討
- ・スケジュールの立て方。実習内容の標準化。評価方法の標準化。など
- ・それぞれの施設での実習状況・情報交換。
- ・それぞれの施設で行った、具体的な実習内容についてのディスカッション
- ・それぞれの立場(仕事内容)の紹介
- ・それぞれの立場からの実務実習への考え方、アプローチ方法
- ・チーム医療に関して、他職種で医療の教育に携わっている人がワークショップに参加することで、理解が深まるのではないかとされる。
- ・チーム医療の構築について
- ・チーム医療の実践にむけた、必要カリキュラム
- ・チーム医療や地域連携などの、職場や職域を越えた業務を想定したワークショップを希望します。
- ・テーマをしぼった三者によるSGD
- ・“プランニング等の話ではなく実践的なもの。例えば、教育論等。
- ・その他、大学でどのように指導されているかも知りたい。”
- ・もう少し、モデルコアカリキュラムの意義や位置づけ、それに基づいた実践例を参加者同士で議論ができる場で有って欲しい。ワークショップのタスクフォースの方にはその議論の司会や白熱した場合の調整役として参加していただければ十分である。モデルコアカリキュラムをどのように消化するか、ではなく我が国としてどのような薬剤師を育成するのが適切なのか、そのためには実務実習をどのように位置づけ、実施していくのがよいのか等、アドバンスワークショップなのであれば、そのような全体的な視野をもって議論する場である必要があるのではないかと。
- ・より現実的な指導方法
- ・より実習指導の実践スキルが向上するような内容。
- ・より実践的なものを目指すのであれば、対象を病院薬剤師、薬局薬剤師などに絞った方がよいと思います。
- ・より実践的な医療人としての勉強の場としたい
- ・ワークショップではグループに薬局・病院・大学の人が入っていたので、面白いディスカッションができた。しかしアドバンスワークショップが開催されるなら、薬局のみ、病院のみのグループにわかれて、より実践的な内容で行ってもいいと思う。

- ・ワークショップで学んだことの最新情報とさらに詳細な部分。
- ・ワークショップに参加した後、実際の実務実習でどのような業務変化があったか具体的に知りたいです
- ・ワークショップの復習(特に評価方法) 現在問題となっている事項
- ・わかりやすい内容であってほしいです。
- ・医療現場におけるモラルと医療安全への取り組み
- ・医療制度の動向に対応した薬剤師業務について
- ・課題・問題点の共有とその解決方法の検討
- ・外国人を受け入れる施設を想定したコミュニケーションのとりかた(言語があまり無くても通じるような)
- ・各 SBOs の指導に使用できるワークシートやツールの作成など。実習開始前にも、ワークシート作成の研修に参加したことがあるが、実際に実習受け入れを経験して、さらに使用しやすいものを作成したい。
- ・各研修施設における学習目標・学習方略とその効果について議論したい。
- ・各施設ごとの情報交換と実務実習を開始してみたい問題点の抽出と改善策についてなど。
- ・各施設での実習生に対して困ったこと、よかったことを共有し、大学、実習先がとれる対応を討議。また実習を経験した学生の参加も交えて行ったらどうか。
- ・各施設での実習生への指導の具体例。成功していると思われる良い指導法など。
- ・各施設での実務実習の問題点の抽出とその解決策の討論。
- ・各施設での特徴的な取り組みに対する発表会
- ・各施設での問題点の抽出と改善
- ・各施設における実習内容など
- ・各施設のカリキュラム、実習例の検討
- ・各施設のカリキュラム提示による情報交換
- ・各施設の実習項目別取り組みの具体例や実習生から評判のよかった実習内容の紹介など、現カリキュラムの問題点の抽出と改善への取り組みなどの研究発表
- ・各実習施設で取り組んでいる特長的事柄に関して発表してもらおう。
- ・各種勤務業態における現状にそくしたものの
- ・各種問題点と対応策、SGD の実例
- ・各受入施設での取り組み、カリキュラムなど。
- ・各職域での実務実習における工夫、問題点(成功例、失敗例)
- ・各病院での実際のカリキュラム、またその問題点
- ・学生、大学側からの実習施設先の問題点等の報告してほしい。
- ・学生が実習に行く前の大学での、プレ実習の具体的な内容、具体的な指導内容を指導薬剤師に教えていただきたい。
- ・学生に関しては、全国学生合同ワークショップで、「初年度実務実習の成果と課題」をテーマに開催されているので、指導者の立場で成果と課題に関して行ったらよいと思う。
- ・学生の意識の差について
- ・学生の知識レベル。
- ・学生の評価方法
- ・学生の評価方法についてより具体的なこと
- ・学生の満足が得られる実習とは。
- ・学生へのフィードバックについて
- ・学生を指導する際、効果的に行えるようなテクニックや指導カリキュラムの作成法。問題点の解決法。
- ・学生教育を行う上での問題点解決、職務上および教育上のマネジメント、リーダーシップとフォローシップ、など
- ・学生個々に合わせた指導方法
- ・学生指導を経験したうえでの問題点の討論
- ・学生実習の位置づけについて。六年制の必要性について。
- ・環境が似ている他施設での対応方法の情報交換
- ・基礎薬学の思考を利用して clinical problem を解決する方法
- ・既に実務実習がスタートしているのでそれをふまえたもの！受入施設の紹介！問題点の紹介や先進的実習の紹介など
- ・教育とは、どうあるべきか考える。内容。
- ・教育の成功例と失敗例
- ・教育学の専門の方から、学生指導のテクニックを学べる機会があると良いと思います。
- ・教育方法を学んだが、実務実習をレベルアップさせるための具体的な内容をもっと加えていく。
- ・教員になることを前提とした基礎講習を受けた後、実際の実務で行っている実習について行う
- ・業務の合間をぬって少ない人数で効率よい指導を行うには。実習内容の実例など。理想的な指導をどのように現実的にするか。
- ・苦勞している実習内容や、各施設の実状、対応策など
- ・具体的な学生さんへの指導方法と成果。
- ・具体的な指導内容
- ・具体的な指導内容について
- ・具体的な指導方法
- ・具体的な実習内容とその意義。
- ・具体的な実習内容の情報交換
- ・具体的な実務実習の内容について
- ・具体的に各施設でどのような実習を行っているか情報交換ができるような内容
- ・形式は前回同様で、実際に受け入れた後の問題点などの解決方法や各施設での取り組み工夫例などの共有が出来ればよいのではないのでしょうか。コーチングについても体系的に学びたい。
- ・経験の交流 要望を出し合ってより良い実習にしていきたいと思います
- ・現況における実務実習の問題点と改善案を検討したいです。
- ・現行での問題点の把握、モデルコアカリキュラムの見直し
- ・現在のワークショップの内容でよいと思う。
- ・現在の学生指導も施設により大きな差があると予測される。その均一化を図っていくような内容が良い。
- ・現実の SBOs を基に計画されたモデル実習を体験
- ・現実問題実習困難な事柄にどのような対応をすればいいか、意見を聞きたい。
- ・現場での実習内容の共有、それに対する大学教員の意見をディスカッションできればと思います
- ・現場で実践できるような内容。
- ・現場と大学の連携方法。
- ・現場と大学の連携方法。
- ・現場にあわせた具体的な内容、わかりやすい解説。
- ・現場にふさわしい GIO SBOs の検討
- ・現場に即した講義
- ・現状(他施設長)の認識を今後の改善点に分かる内容
- ・現状(良い点・悪い点も含めて)、問題点、改善策などを議論できればいいと思う

- ・ 現状と問題点、今後の改革
- ・ 現状のやり方で良いが、ユニットをもっと増やしてほしい。
- ・ 現状の実務実習にて見出された問題点や改善点などを踏まえたもの
- ・ 現状の問題点の把握と改善方法
- ・ 現状の問題点の分析
- ・ 現状を反映した同様の内容を実務実習に関わる薬剤師全員を対象に継続的に行ってほしい。
- ・ 今まで実務実習をやってきた中での問題点
- ・ 今後の医療情勢(医療・福祉の一体化)を見据えた内容、生き残れる薬剤師像を見せてほしい
- ・ 今後の改善点について
- ・ 今後の薬剤師教育の展望と方向性
- ・ 今後の薬剤師像を示し、どのようなことが現実可能な範囲内で必要であるかを示して欲しい
- ・ 今後重点的に取り組むべき業務についてなど相互領域にもっと乗り入れた形で行う。三者が理解し合える内容が必要です。
- ・ 参加型実務実習をやってきて新たにでてきた問題点などの意見交換
- ・ 参加者の意見交換が十分にできる内容
- ・ 指導の実践(評価における注意点)
- ・ 指導後の問題点や今後の改善点などについて
- ・ 指導内容の各職種間のつきあわせ、連携の検討
- ・ 指導内容の範囲について(どこまで指導すれば良いのか)
- ・ 指導内容の明確化
- ・ 指導薬剤師としてのモチベーションを高めるような内容。
- ・ 指導薬剤師以外の薬剤師と一緒に学生指導を行う際について
- ・ 施設ごとのカリキュラムの内容についての報告会
- ・ 施設ごとのカリキュラムを持ち寄って意見交換
- ・ 施設間のカリキュラム比較と今後の実務実習の改善
- ・ 施設間の指導内容のレベルの差
- ・ 施設間の指導内容のレベルの差
- ・ 施設間格差をなくするための工夫。グループ実習のカリキュラム作成。病院と薬局の連携。
- ・ 事前に参加者に実務実習に対しての問題点などのアンケート調査を行い、その結果をもとにそれを解決するようなSGD
- ・ 自施設の行っていない業務で他施設が得意とする分野を補いあって実習できる体制づくりについて。
- ・ 自分の実務経験の見直しにもつながるような・・・内容は難しいですが、
- ・ 実際、新しい教育システムが動き始めた後の実習方法の変化
- ・ 実際にうけいれている時に起こった問題点への解決方法を皆で話し合う。
- ・ 実際にどのように教育をしているのか。学生用の資料サンプルの配布。
- ・ 実際に現場で指導している薬剤師の講演、実例
- ・ 実際に現場で指導している薬剤師の講演、実例
- ・ 実際に行ったカリキュラムプランニングや評価方法の検討
- ・ 実際に実習を行った施設間で意見交換
- ・ 実際に実習を受け入れてからの問題点の抽出
- ・ 実際に実習生を受け入れた後の実習プログラムの具体的例
- ・ 実際に実習生を受け入れた後の実習プログラムの具体的例
- ・ 実際に実務実習で行っているカリキュラムや特徴のある内容の情報交換
- ・ 実際に実務実習に携わり発生した問題とその解決方法を学びたい。
- ・ 実際に実務実習を経験してからの、具体的な指導方法・問題点についての意見交換の場を持っていただきたい。
- ・ 実際に実務実習を経験してからの、具体的な指導方法・問題点についての意見交換の場を持っていただきたい。
- ・ 実際に実務実習を行った上での問題点。施設の問題、指導薬剤師の問題等
- ・ 実際に実務実習を行って、生じる問題点(学生側、薬剤師側、大学教員側)における解決方法。
- ・ 実際に実務実習を行なってみての問題点に対する工夫など
- ・ 実際に受け入れてみて悩んだことや解決した方法などのスモールディスカッションを骨格に、実習受け入れの円滑にいく為のサポートの内容を望みます。
- ・ 実際に受け入れ先の施設でどのような指導を行っているかの発表
- ・ 実際に受入を行っての問題点や、改善点。
- ・ 実際に即した問題点、指導方法等の比較。到達度の施設間の相違。
- ・ 実際のモデルカリキュラムに沿った指導の様子の見学
- ・ 実際の各施設でのやり方、工夫、などやってみてよかったなど参考にできる具体的な例を聞きたい
- ・ 実際の指導における問題事例とその解決についての考察、検討など
- ・ 実際の指導内容、評価などを具体的に
- ・ 実際の実習に関連したことでの問題提起、解決、評価などに関連したことを、フォローアップできる研修があればと思います。
- ・ 実際の実習の進め方、大学側の希望する教育内容など具体的な情報交換が行いたい
- ・ 実際の実習の内容や評価方法の解説
- ・ 実際の実習受け入れに際して、問題点の抽出と対処についてディスカッション
- ・ 実際の実務に沿った施設での取り組み方などのSGD
- ・ 実際の実務実習に携わった上で、今後のあり方や方向性について。学生や大学側からの評価も踏まえて。
- ・ 実際の実務内容の具体的な実習方法例について
- ・ 実習において発生している問題解決
- ・ 実習の具体的内容と進め方、学生へ与える具体的課題、病院施設間実習内容の格差等の問題点等
- ・ 実習の実状、成果、学生の感想と希望、受け入れの問題点と改善点など
- ・ 実習の成績評価方法
- ・ 実習の方法と評価について
- ・ 実習を行う上で、情報交換の場とするならば病院と薬局わけてやってほしい。
- ・ 実習を行った上で起こった問題点への対応や考え方について
- ・ 実習を行って、問題点の交換や評価の在り方など実習生を受け入れた方から意見をまとめた情報がほしい
- ・ 実習を行って困った事、問題点、実習内容の紹介等、施設間での意見交換
- ・ 実習を受け入れての問題点(及びどのように解決したか)、ふるさと実習で遠方の大学の実習生を受け入れた場合の利点、欠点等。
- ・ 実習開始後の実際について
- ・ 実習開始後の問題点に関して、改善策など
- ・ 実習経験の学生も加わり、そこで双方の立場の理解ができる

- ・ 実習継続困難例などのトラブル発生事例とその場合の対処法について。
- ・ 実習計画の設計、内容検討、評価方法、改善のための検討方法など
- ・ 実習後の学生の変化、指導者の変化
- ・ 実習行つての成功例・問題例など他施設の現状を知りたい。
- ・ 実習指導が適正だったか不明であるため、それを確認できる内容。大学間の違いを解消する方法を検討する内容。
- ・ 実習指導にあたっての問題点や改善点を議論し、実習の質・学習効果を高めることを目標とする。就職した学生本人が現在、実習をどのように位置づけているかなど、学生からの意見も聞いてみたい。
- ・ 実習受け入れで発生した問題点への対応。
- ・ 実習受け入れにあたっての報告など
- ・ 実習受け入れ後の課題など
- ・ 実習受け入れ側と送り出し側の相違点
- ・ 実習受け入れの具体的な状況や方法、工夫などが勉強できるといいなと思います。
- ・ 実習受入を経験しての成功例・失敗例などの情報交換。施設(薬局・病院・大学)で実施している実習への取り組みについて。
- ・ 実習受入経験のある薬剤師間で、現場での問題点の抽出と解決策
- ・ 実習受入後の問題点と解決法など。各施設の評価のあり方。
- ・ 実習生の評価基準について。
- ・ 実習内容の見直し、検討について教えて欲しい。
- ・ 実習内容の情報交換
- ・ 実習内容の比較、検討と学生のニーズについて
- ・ 実習問題抽出と改善策等検討
- ・ 実務(服薬指導等)に沿った内容が望ましいと思います
- ・ 実務実習 2 年間の振り返りとして、実習を行った上での問題点や課題を抽出し、その問題を皆で共有し、その解決を図るためのワークショップが必要かと思えます。
- ・ 実務実習が始まってからの問題点とその対策
- ・ 実務実習が薬剤師事前教育として有意義であったか？それは、ワークショップで学んだ方法を利用したものか？
- ・ 実務実習で、大学が病院や調剤薬局に望む具体例と現状のギャップについて教えてほしいです。
- ・ 実務実習での工夫していること。日常業務と実習の進め方。中毒。TDM。
- ・ 実務実習で学生にとって必要なポイントとそのための基礎としてやるべきことを明示して欲しい。
- ・ 実務実習において工夫している点
- ・ 実務実習における効果、問題について、今後の実務実習について
- ・ 実務実習についての具体的な情報交換・他施設の状況を確認したい。
- ・ 実務実習に関わる薬剤師への指導など(実務実習指導薬剤師と一般薬剤師のギャップを埋めるために)
- ・ 実務実習に消極的學生への対応
- ・ 実務実習に来る前の薬学生の試験内容の出題と大学教員による回答(講義のような)。自身の知識向上のため、大学でどのように教わっているのかを知りたい。
- ・ 実務実習の具体的な事例紹介(問題点などを含めた内容)、指導薬剤師側が抱えている問題の解決方法など。
- ・ 実務実習の具体的な進め方やコアカリキュラムに対する、模範解答又は指導方法
- ・ 実務実習の現状と問題点
- ・ 実務実習の現状把握と今後の課題。
- ・ 実務実習の実際
- ・ 実務実習の実務的なことについて取り扱ってほしい。
- ・ 実務実習の地域、施設格差を解消するためにはどうするか
- ・ “実務実習の中心となる大学教員だけでなく、他の大学教員(学生の所属研究室の教官)が実習への理解を高めるために参加すべき。
- ・ 実習期間中に研究室の研究テーマが気になるような体制は現場としては大変不満が残る(H22年度、前所属施設におけるケース)。”
- ・ 実務実習の目指すところは？
- ・ 実務実習の問題点とその解決方法
- ・ 実務実習をよりよくするため、問題点解決のための SGD
- ・ 実務実習を行う上での薬局・病院での問題点解消を目指すもの
- ・ 実務実習を始めてみての問題点や工夫など 薬局・大学・病院での連携など
- ・ 実務実習を実際に受け入れての感想と今後の課題と展望
- ・ 実務実習を受けた後の学生からのカリキュラムに対する評価
- ・ 実務実習を受け入れて困ったことや判断に迷った事例があればその内容と対応策
- ・ 実務実習を終えた学生からのフィードバック、大学教員に現場を知ってもらいたい
- ・ 実務実習開始後の大学側の問題点と、受け入れ側の改善点について。
- ・ 実務実習現場で起こっている問題点と今後の課題について
- ・ 実務実習実施後の大学および薬局・病院における問題点とその解決法
- ・ 実務実習実施後の問題点や悩みなど。
- ・ 実務実習実施後の問題点及び改善策
- ・ 実務実習受け入れ時の問題点の洗い出しと改善案
- ・ 実務実習受け入れの総括的な内容を希望します。
- ・ 実務実習生を受け入れてからの問題点とその解決法。
- ・ 実務実習生を受け入れて日常業務にどのような影響があったか。
- ・ 実務実習全体に係るような内容、病院・薬局・大学それぞれに係る内容と分けて開催して欲しい。
- ・ 実務実習中に起こった問題点・苦勞した点やその解決方法など
- ・ 実臨床の経験の浅い実務家教員が臨床を教える視点を養う内容
- ・ 実例を含めたコアカリキュラムの検証
- ・ 受け入れ経験あり、なし、これから受け入れたい、という入達が情報交換できるのが望ましいです
- ・ 受け入れ経験の相互情報交換。評価の実際。
- ・ 受け入れ後の問題点について話し合う など
- ・ 受入後、他施設で問題になったこと等あるか、またそれに対する対応など。
- ・ 初心に帰るといふ観点から、ワークショップで行われた総論の講義(再演)
- ・ 症例検討や、実際の実務実習で問題となったケースと対応など。
- ・ 情報交換
- ・ 情報交換、実例など、実習に取り入れられるエッセンス
- ・ 情報交換会

- ・ 情報交換会 アドバンスドコース
- ・ 職員薬剤師の育成プログラムについて
- ・ 先進事例
- ・ 全国的に各施設の優れたカリキュラムや取り組みを紹介していただくと、今後の参考になると思います。
- ・ 他の施設で、受け入れで起こった問題点と、どのように対応して改善できたかの実例
- ・ 他の病院での実務実習をどのようにされているのか聞きたい。
- ・ 他院(同じ職域・同規模)での実習カリキュラムを用いた内容。
- ・ 他施設での実習内容。評価の現状。
- ・ 他施設では参加型実習をどのように実施されているか具体的な話を聞きたい(実際どのようにいかしているか)
- ・ 他施設との連携についてより詳しく
- ・ 他病院の取り組み方(大規模・中小病院等に分けて)
- ・ 大学、受入施設それぞれが求めるものを探求する
- ・ 大学、薬局、病院の3者が共通の認識で実務実習を行えるようになる様なワークショップ。
- ・ 大学での教育内容について 特に5年の実習に来ていない期間と6年の間の学習内容が不透明です
- ・ 大学ではこういうことを教えていて、学生はここまでのレベルなので、実習病院にはこういうことを期待するという内容を具体的に提示した方がよいと思う。
- ・ 大学と薬局、病院では考え方が違う。違いを少しでも埋めていきたい。
- ・ 大学の教員と臨床の現場では、共通したテーマでディスカッションすることが難しかった。別枠で研修した方がいいのではないか。
- ・ 大学基礎教員への薬剤師ニーズの理解
- ・ 大学教員から現在の学生について話を聞きたい。
- ・ 大学教員の方も多数出席していただき、現場の薬剤師との情報交換する時間を設ける
- ・ 大学教員は現場を知らなさすぎると感じたので、大学と現場薬剤師が寄り添えるような内容にして欲しい。
- ・ 大学側、学生側と現場(病院や薬局といった実習機関)のずれの解消(実習内容や目標について)
- ・ 地域による薬剤師数の偏りについて対策があればご教授頂きたい。
- ・ 地方の1名~2名体制で薬剤師業務を実施している場合の実習生受け入れの工夫
- ・ 調剤薬局での実習内容、実態など、どの程度まで実際になされているかの情報がほしい。
- ・ 長期実務実習がはじまってからの問題点
- ・ 長期実務実習が開始しての各施設の状況について。緩和ケアに関して実習でどのように取り組めばよいか
- ・ 長期実務実習における問題点の解決方法
- ・ 長期実務実習の現状、何をベースに実習計画を組んだか等々
- ・ 適正な評価の仕方。実施しにくいSBOsへの対応。
- ・ 当院で完結型の実習受け入れをしていますが、地域でのSGDを取り入れるような取り組みも検討してみたいかでしょうか。
- ・ “当院の場合には、実習生が一人なので、実習同士のディスカッションがなかなかできない現状がありました。
- ・ 1人の場合にも、うまく対応できる方法なども加えていただくとありがたいです。”
- ・ 到達度の評価方法について、ロールプレイ。
- ・ 到達目標の具体例、類似した到達目標の違いやその解釈について
- ・ 同じ病院薬剤師同士で困っている点などについて気楽に話し合える場があればと思います。
- ・ 内容は今回行われたワークショップと同じ内容でも良いと考えます。
- ・ 漠然とした広義での薬剤師業務では、それぞれの職務のスキルは身に付かないように思います
- ・ 評価する場合の具体的なポイントや基準を教えてください
- ・ 評価の差の付け方
- ・ 評価の仕方。
- ・ 評価基準の均一化
- ・ 評価方法
- ・ 評価方法、同規模施設の指導内容の実態
- ・ 評価方法について
- ・ 評価方法に対して知識を習得したい
- ・ 評価方法の検討(有意義な評価方法の実例提示)、均一な実習の実施のための手段やテクニック
- ・ 病院、薬局、大学での現状についての意見交換ができればと思います。
- ・ 病院、薬局、大学での実習や教育内容の報告、実務実習稼働後の問題点の検討。そして国民への周知について。
- ・ 病院、薬局、大学の先生方の交流は非常に貴重ですが、各職種のみでのグループ討論の時間もあればよいかと思いました。
- ・ 病院、薬局実習のお互いの情報交換
- ・ 病院と薬局が実習を通じて連携出来るようなテーマ。
- ・ 病院における実習生の指導内容についての振り返りやテキストの作成等。
- ・ 病院の臨床現場に即した、カリキュラムの作成の仕方
- ・ 病院実習に限定した内容であること。(薬局は別で行う)評価方法の具体的な講習。(実習が始まる前にしか講習を受けていないので、実際始まってから具体的にどう評価すればよいか迷うことがよくあるため)
- ・ 病院実務実習のカリキュラムを、どのようにしているか、話を聞いてみたい。困っていることとか
- ・ 病院薬剤師、薬局薬剤師、大学薬剤師の指導内容を公開して見る
- ・ 病院薬剤師と大学、薬局薬剤師と大学と実習内容に応じた内容
- ・ 病院薬剤師の実業務と実習指導の両立(特に中小病院で薬剤師数が少ない施設での)
- ・ 複数施設によるグループ実習を行う為に必要となるもの(手順、資料、打ち合わせなど)
- ・ 平成18年度に受講したため、大学6年制になった現状を中心に学びたい。
- ・ 変わってれば、6年前のその時の薬学教育と今の現状の変化について
- ・ 方法論でなく実習の実際についての説明
- ・ 方略について、ゆっくり学びたいと思います。
- ・ 方略の有効事例の共有。現状の問題点の抽出と対策。
- ・ 模擬学生を設定し、薬局・病院・大学部門の参加者からどのような教育が必要で、いずれの部門で行うべきかを話し合う
- ・ 問題のある学生への対処法
- ・ 問題解決の実務事例について大学・薬局・病院の所属の異なる参加者をチームとして検討し、問題点を共有する。
- ・ 問題事例と対応方法
- ・ 問題点の抽出
- ・ 問題発見、解決型のプログラム

- ・薬・薬連携のこれから・・・ 専門薬剤師時代のこれから・・・
 - ・薬学6年制になったの効果がどのように現れているかの現状を報告等
 - ・薬学教育6年制の問題点とその解決策を議論する。
 - ・薬学教育6年制の問題点とその解決策を議論する。
 - ・薬学教育6年制実習の問題点とその解決策を議論する。
 - ・薬学教育の変化。フィジカルアセスメントや採血の実習について。
 - ・薬学教育モデル・コアカリキュラムの改編に直接結び付くような内容
 - ・薬学実務実習における目標とそれに対する到達度
 - ・薬学生の指導の仕方
 - ・薬局、病院、大学がお互いの仕事をもっと理解できるような内容
 - ・薬局、病院別々に行う事。それらに大学教員が加わる様な内容。
 - ・薬局での指導内容方法の具体的解説
 - ・薬局薬剤師、病院薬剤師、大学教員が意見交換ができるような形のワークショップ
 - ・薬局薬剤師と病院薬剤師が同じワークショップに参加するのには無理がある。
 - ・薬剤管理指導業務、院内製剤業務、薬物動態などの業務について、学生への指導方法を希望。
 - ・薬剤師の育成に係わるあらゆる職種が、育成の目標、現状、方法等についてコンセンサスを得られるような内容。
 - ・薬剤師誕生の経緯的を伝えていくことも、歴史的にみて必要かと思えます。
 - ・薬薬連携
 - ・薬薬連携について
 - ・有意義な実習を行うための各施設での内容の標準化
 - ・様々な学生がいるので全くやる気のない学生など
 - ・養成ワークショップと異なり、より具体的・実践的な内容
 - ・立場の違いから、実務実習の中で重要と考える部分が違ってないかについて確認したいと思えます。
- 【記述 52】
4. ワークショップ全体について
- (4) 今後、ワークショップ受講者を対象とした地区単位、地域単位のアドバンスワークショップが開催される場合
- ⑤ 全体講演を行なう場合、どのような講演を希望されま
すか。
- ・『医療人として』の実習に活かせる内容。
 - ・倉敷中央病院 福岡敏雄先生 ②MEDC 藤崎和彦先生 ③国際医療福祉大学 中野重行先生
 - ・3カ月で何が出来るか、というような内容。
 - ・④と同じ(ディスカッションなし)
 - ・4年制と6年制薬剤師が同一施設で業務を行うに当たって
 - ・4年前と内容が同一なのか判りませんが、今でも服薬指導をするときの基本姿勢となっております。
 - ・アドバンスワークショップであるからには、将来的には我が国の薬学教育をリードするオピニオンリーダーを養成するような場であるべきと考える。そのような観点からは薬学教育の大先輩である英国、米国に学ぶことは非常に意義があると考えます。従って、全体講演を行うとすれば海外の薬学教育専門家(私が知っている例で言えば、ロンドン大学薬学部・Dr. Ian Bates など)の講演が望ましいのでは
ないか。
 - ・コアカリキュラムにとられない教育方法
 - ・コーチング
 - ・コーチング方法について
 - ・コミュニケーション、薬剤師として以前に人として成長するための指導方法
 - ・コミュニケーションに関する講演、もしくは、医療安全に関する講演
 - ・これからの薬学教育、実務実習の方向性
 - ・せっかくワークショップを受けても、一度だけの体験なら時間が経てば内容を忘れてしまうのでは？繰り返し、似たような内容の講演が受けられると有り難い。2日間の内容を小分けにして(数日に亘って)講演し、拘束時間が長時間にならないように出来ないか？
 - ・それぞれの立場からの講演
 - ・チームとは？/岡田元サッカー日本代表監督 or 朝原 400M リレーメダリスト
 - ・フィジカルアセスメント、亀田総合病院 薬剤部 佐々木忠徳先生
 - ・マネジメントについて。薬剤師の方向性について。
 - ・モチベーションを上げる技法[指導者及び学生]
 - ・モチベーションを上げる技法[指導者及び学生]
 - ・より具体的な実習内容で、各施設では判断つきにくい指導項目。たとえば、麻薬を学生に調剤させて良いかどうか？(各地域によりことなるようなので)
 - ・ワークショップに対して実務実習の実際の取り組み。実習生の実習満足度調査。
 - ・わからない
 - ・以前のワークショップでもそうでしたが、薬局と病院と大学の連携についての講演を希望します
 - ・偉い人じゃなくて、1年目でも5年目でも、実際に指導に携わっている人の話が聞きたい
 - ・医学部の教育体系(実臨床家が指導する)を学ぶ
 - ・医師教育、看護師教育におけるアルゴリズムと接点
 - ・医療の質と安全
 - ・医療安全と薬剤師の役割について
 - ・医療安全と薬剤師の役割について
 - ・医療安全領域でのノンテクニカルな部分(例えばチーム医療でのコミュニケーション大切さとか精神面)の講演
 - ・医療人教育改革を再度聴講したい(実習が開始されさらに重要視できる)。先進的な薬学教育を行われている大学・地域の取り組み(昭和大学・木内先生)
 - ・一人薬剤師で薬学6年生実習を受け入れた経験のある薬剤師
 - ・海外、アメリカなどでの薬剤師の制度、資格、仕事の違いなど
 - ・各施設で工夫している生の声を、病院・大学・調剤薬局の視点で講演してもらいたい
 - ・各職域毎(大学、病院、薬局)の現状取り組み報告 と グループ分けして課題、問題などについて SGD
 - ・各大学に沿った説明。
 - ・学校間、生徒間のレベルの違い、実習に対する意欲の違いが大きい場合の対応、評価法
 - ・学生といかに向き合うか。職員、学生それぞれのモチベーションを保つには、上手なほめ方、しかり方など。
 - ・学生のモチベーションを向上させるために。昭和大学の木内祐二先生もしくは福山大学の吉富博則先生。
 - ・学生の個性に対応しつつ、学生全員を指導するために必要な教育スキル

- ・ 学生をどのように扱ったら、実務実習がより良いものになるのか
- ・ 学生を教育する際の、具体的な教え方について
- ・ 学生教育を行う上での注意点や、考え方。
- ・ 基本的に、薬局経営者と使用人(勤務薬剤師)や病院薬剤師は全く違うし公務員、大学職員、企業の社員も同じ薬剤師という資格を持ちながら意識的に違うのですよ。日本薬剤師会は「日本薬局経営者会」だし日本病院薬剤師会は「日本大学病院薬剤師会」的な団体であることも頭に入れてやっていただけないと中小病院の薬剤師や精神科の薬剤師はまるっきり理解されないか「そんなやつもおるからな」で終わってしまう存在だし、公務員薬剤師の仕事に関してはカリキュラムの中ではまるっきり関係のない形じゃないですか。
- ・ 教育、実務両方に携わる方の学生実習における経験、指導について。6年制のレベルアップをいかに行うか等
- ・ 教育に関しての講演、特に人を評価すること、されることについて。
- ・ 教育のあり方を薬学教育に傾かない立場でお話していただけたらいいと思います。
- ・ 教育の第一人者
- ・ 教育学関連
- ・ 教育指導について。教え導くとは？具体的な方法など。
- ・ 教育者としての心得や態度、学生との接し方など
- ・ 教育理論
- ・ 狭間研至
- ・ 具体的で客観的な評価方法
- ・ 具体的な実習の進め方
- ・ 具体的な病院実習についての講演を望みます。
- ・ 現在希望無し
- ・ 現時点での実務実習の問題点。
- ・ 現状の問題点の分析
- ・ 個人的には病院で指導薬剤師をされている方の話が聞きたい。大学側の要望も聞きたい。
- ・ 個性的な実務実習内容の紹介
- ・ 効率的な実務実習を展開されている施設の薬剤師の講演
- ・ 厚生省の薬学部 6 年生を決めた役人。コミュニケーション講座のプロ。
- ・ 厚生省の今後の方針・実際の指導薬剤師の経験からの今後
- ・ 講演の効果については疑問です。ワークを行ったほうがずっと役に立つと思います。
- ・ 講演を聞いた当日から活かせそうな、大橋健先生@国立がん研究センター中央病院のエンパワーメントについての講演
- ・ 講義は学術集会等で、聞く機会は沢山ありなくてもいいと思う。参加型実習の更なる充実がいい。
- ・ 国や教育機関が現場に何を求めているのかに関する講演
- ・ 今回の講演はとても良かった、また、リクエストします。
- ・ 今現在どのようになっているのかを確認したい。
- ・ 今後、薬剤師の業務がどのように拡大していくのか具体的な講演を聞く機会を希望します
- ・ 今後の医療における、あるべき薬剤師、求められる薬剤師
- ・ 最近の学生の価値観、傾向
- ・ 最後に講義があったが、簡潔のまとめ1名で止めてほしい。教育法に関する内容。
- ・ 三輪先生
- ・ 参加型実務実習を経験した学生からの意見や実務実習指導薬剤師に対する要望。
- ・ 指導薬剤師(実際に指導した)に、現状をありのままに
- ・ 施設間での違いとそれを補うための方法も含めたポイントの例示。資料だけでも総括を。
- ・ 質疑応答ができる環境
- ・ 実際におこなった実務実習に関する経験談
- ・ 実際の実務実習を担当されている薬剤師
- ・ 実際に診療しているDr. の薬剤師に向けての講演。
- ・ 実際の指導に関して病院・薬局・大学代表の発表・パネルディスカッションを希望します。
- ・ 実際の指導に関して病院・薬局・大学代表の発表・パネルディスカッションを希望します。
- ・ 実際の実務実習における指導のポイント、評価の方法について
- ・ 実施している実習の具体的な方法の報告(ヒト・物・経費など)。医療機関で発生している問題点について。
- ・ 実習で起こった、問題点と解決方法
- ・ 実習を行うにあたって環境的に困難な項目に対するの対処方法
- ・ 実習を行うにあたって環境的に困難な項目に対するの対処方法
- ・ 実習を行って困ったことや各大学の対応などを知りたいです。大学格差が大きく、戸惑うことが多々あるので。
- ・ 実習を終了した学生の意見を聞いてみたい
- ・ 実習開始に伴う、指導薬剤師の負担と学生の充実度
- ・ 実習経験の学生の話を知りたい
- ・ 実習受け入れ施設での現状、指導方法や工夫について、具体的な内容を知りたいです。
- ・ 実習終了後の学生の意識変化について
- ・ 実習生への指導の仕方
- ・ 実習生を受け入れている施設での実際の実務実習内容(薬局実習でどのようなことを学んでいるかを知りたいため)。
- ・ 実習生受入と病院薬剤部の業務を効率的に両立させている病院の指導薬剤師の講演
- ・ 実務指導業務における、実際の現場での問題点とその改善策について
- ・ 実務実習が始まり、各大学での取り組み方・6年制と既業薬剤師の格差について
- ・ 実務実習に向けての教育や、指導薬剤師のあり方など。
- ・ 実務実習のモデルとなる施設(大・中・小規模病院、門前・遠隔地保険薬局)の現状
- ・ 実務実習の現状、変遷 今後の実務実習のあるべき姿について 大学における教育内容の変遷など
- ・ 実務実習の現状と問題点
- ・ 実務実習の今後の展望
- ・ 実務実習の受け入れがとてうまくいっている施設の紹介。忙しい業務の中で今後実務実習を受けていくにあたってのアドバイスなど。実務実習を受けることによるメリット。
- ・ 実務実習の内容が充実している施設の例
- ・ 実務実習を実践されている先生方の公演。
- ・ 実務実習を終了した学生の成果を、例を挙げて報告するような内容が良いと思います。
- ・ 実務実習開始後の問題点
- ・ 実務実習後に学生の学び方が変わったか、それは大学でできないことか大学の先生の話を知りたい。
- ・ 実務実習指導薬剤師として、何が有利で、何ができるか。
- ・ 実務実習前後の学生の意識変化等を大学側から示して欲しい。
- ・ 社会的ニーズ対応・告知およびインセンティブ取得の為の

ロードマップ

- ・ 受け入れ施設の薬剤師の講演
- ・ 受入施設側の状況や今後の課題（大病院、中小病院、薬局それぞれ）
- ・ 将来の臨床教育に対する大学教員の考えや展望について。
- ・ 将来薬剤師に求められる業務、薬学部の現状
- ・ 少人数で行うSGDの効率的な進め方や、課題資料の作成
- ・ 上記の内容を具体的に実践されている講師
- ・ 情報を提供していただきたい
- ・ 情報交換できるような講演を希望
- ・ 職員薬剤師の育成プログラムについて
- ・ 心理的な苦痛を与えない実習や教育方法について ハラスメントについて(その予防)
- ・ 全体で行う必要は無い。
- ・ 全体講演はE-ラーニング等で事前研修し、グループミーティングの時間を増やす。
- ・ 他施設、他病院での実際の実務実習内容について具体例を挙げて照会して欲しい。
- ・ 他職種の方(医師・看護師)による医療における薬剤師に求めるもの
- ・ 大学、薬局、病院の3者が共通の認識で実務実習を行えるようになる様な講演。
- ・ 大学・現場を結びつけるような講演。
- ・ 大学・受け入れ施設毎の現状について。
- ・ 大学から、学生の施設に対する評価をまとめた講演をしてほしいです。当院でも学生からアンケートをとって随時改善を試みていますが、多くの学生ニーズに応じた実習を行っていきたくて、実際学生が施設に何を求めているのかを知りたいです。
- ・ 大学でどのような教育を行っているか知りたい。コアカリの見直しについて。
- ・ 大学での教育と現場での教育の違いについて。そもそも教育とは何か？
- ・ 大学での事前実習の成果や問題点、実習終了後の成果や問題点
- ・ 大学での実習内容。(散薬の秤取方法、軟膏練り方、抗がん剤無菌調製などの具体的に教えている内容。)
- ・ 大学における講義内容の概略 CBT に対する取り組み
- ・ 大学の教員が講演された時、どのような薬剤師を養成したいと考えているのか知りたいと感じた。
- ・ 大学の教員の方々に、病院・調剤薬局それぞれに大学側が期待している事を本音でお話して頂きたいです。
- ・ 大学の教職員の方に現場を知っていただくような内容
- ・ 大学の施設でよかったです
- ・ 大学の先生の本音をもっと聞きたい。
- ・ 大学は病院に何を求めているのか。どんな実習をさせたいのか。
- ・ 大学教員より、実務実習後の学生の声について聞きたい。
- ・ 大学側から見える(実務実習前後の)学生の変化
- ・ 大学側は各施設の実習内容と学生への評価をどのように受け止めているのか、実習に何を期待して求めているのかを知りたいので、大学側の講演を望む。
- ・ 大学病院、大手薬局の話聞いても中小病院は参考にならないので、中小病院で実際に実務実習を受け入れている薬剤師の話は聞いてみたいです。
- ・ 大学病院の実際の指導方法のいくつか。
- ・ 中島先生の講演は、何回お聞きしてもいいので、アドバンストワークショップでぜひ講演していただきたい。
- ・ 聴講のみでなく、参加型の講習
- ・ 長期実務実習の現状と課題について。
- ・ 東大。澤田先生。
- ・ 日病薬としての方針を再度確認したいので堀内会長、また薬学部としての意見も聞きたい。
- ・ 日野原重明先生。
- ・ 認定実務実習指導薬剤師の今後のありかたについて
- ・ 病院・薬局に特化した内容で、明日から業務に取り入れられそうな講演を希望する
- ・ 病院実務実習を効果的に行っている病院から講師を招いてカリキュラムの紹介や実習内容について具体的な講演を希望します。
- ・ 病薬会長又は、日薬会長などの薬剤師養成に対する中長期展望を含めて講演して頂きたい。
- ・ 不要
- ・ 米国での取り組み
- ・ 法律的に実習で起こる可能性のある、違法と考えられる事例について、法律と薬事に詳しい演者の話を聞きたい
- ・ 忙しい日常業務をこなしているなかでも、実習生を受け入れて育てたいと思わせる講演。
- ・ 木内先生
- ・ 木内祐二先生
- ・ 木内祐二先生の講演をまたお聞きしたい
- ・ 問題行動・学生への負荷についての講演(各大学の事例があれば)
- ・ 薬・薬・薬連携できていて、中小病院・調剤薬局・大学教員の先生方のシンポジウムが聞きたいです。
- ・ 薬学6年生を推進された先生による、理想の実務実習について講演を希望。
- ・ 薬学教育および実務実習の現状と今後の課題
- ・ 薬学教育と薬剤師の将来性
- ・ 薬学実務実習における目標とそれに対する到達度
- ・ 薬局・病院・大学それぞれにどのように実務実習を行ってきたかを紹介してほしいです
- ・ 薬局実習と病院実習の相違点、実務実習の均てん化
- ・ 薬剤師(病院・開局)の将来像、厚労省の動き…薬科大学が増えているのはなぜか？
- ・ 薬剤師に対する期待(講師は医師か看護師)
- ・ 薬剤師のフィジカルアセスメント
- ・ 薬剤師の将来像
- ・ 薬剤師の将来像に関して
- ・ 薬剤師の生涯教育制度について
- ・ 薬剤師の立場において、教育者としてのあり方
- ・ 薬薬学連携について
- ・ 理想ではなく、忙しい業務の中で実際に実務実習をどのようにされているのかを沢山聞きたい。
- ・ 臨床から大学に行かれた先生に、学生の現状や大学の方針などを拝聴したい。
- ・ 臨床教育について大学教員が求めている方向性。
- ・ 臨床現場における薬剤師の活動の進め方について
- ・ 臨床薬剤師の現状
- ・ 臨床倫理関係 静岡大学人文学部 松田純先生

【記述 53】

4. ワークショップ全体について
- (5) その他、ワークショップについてご自由にご意見をお

書きください。

- ・ (5)②③については、「すべての薬剤師が薬学教育のレベルアップに貢献すべき。」意識を持てる会を望みます。
- ・ 「教える」ということについて学ぶ貴重な経験でした。また、業務について検討する時の考え方や手順についての方法を身につけることが出来たと感じています。学生実習のためと思って参加しましたが、この内容はみんなに知って欲しい内容だと思っています。職場内で広められるよう、努めていきたいと思えます。
- ・ “これからのワークショップではこれまでの実習を行った中での問題点等を取り上げてほしい。
- ・ 病院薬剤師同士や調剤薬局薬剤師など情報交換を出来る場をつくってほしい。
- ・ 大学ごとに異なる評価方式や書式を協議会にて統一してほしい。”
- ・ 実務実習に関わる薬剤師は、認定に薬剤師に限らずワークショップに参加したほうが良いと思う。・KJ法、問題点への対応など一つだけの例題では実際の活用まではいかないと思う。何例が行なう必要があると思う。
- ・ “①あくまでも、認定実務実習指導薬剤師のためのWSは、スタートラインに立つためのWSととらえ、自由な視点からadvanced WSを企画すべき。継続的に、教育について学ぶ機会(WSであれ、講演であれ)を用意する。
- ・ ②医学部・研修医教育では、現在の富士研を源流とするWSの形態は、プログラム管理者(病院で言えば、薬局長、薬剤部長クラス)を対象としている。指導医講習を参考とした薬剤師対象のWSも開催すべきでは？”
- ・ 1回のワークショップで内容を理解することは困難であると思います。また、すぐに忘れてしまうと思われます。フォローアップが必要と思われます。
- ・ 1回の参加人数が少ないので、もっと多くの薬剤師が参加できるようにしてほしい。
- ・ 1回参加しただけでは理解できていなかった。タスクフォースとしてWSを手伝うようになって、なんとなく理解できるようになった
- ・ 1日目の夜はいらない。
- ・ 1泊の宿泊研修にすれば、薬局や病院薬剤師や大学教員でもっと情報交換がもてると思う。
- ・ 2日間にわたり参加させていただき、実務実習に対し抱いていた不安や疑問点が解決でき、実務実習学生を受け入れることができました。
- ・ 2日間みっちり行ったので、そのときはしっかりと身に付いた気がしていましたが、やはり実際の実習までに時間が空いたので忘れてしまっていることが多いです。ネットなどで後からでも復習できるような動画的なものがあればいいなと思います。
- ・ 2年前に受講し、実習生を受け入れていますなかなか忘れてしまっていることも多いと今回思いました。
- ・ 3年以上前の事なので、記憶が薄くなっています。現在実習担当外の業務であり、活用はできておりません。
- ・ 5年前のワークショップなので正直あまり覚えていません。定期的に知識の再確認をする必要があると実感しています。
- ・ 5年前のワークショップについて意見を聞かれてもほとんど覚えていないためアンケートの回答が曖昧です
- ・ 6年前にうけたワークショップについてあまり記憶にない
- ・ SBO に関しては、大学側と病院薬剤師側とで早急に統一すべきである。

- ・ SGD では積極的に参加する人とそうでない人がいたため、なかなか話が進まなかった感じがありました。
- ・ SGDの構成単位が、大学の教員、開局薬剤師、病院薬剤師等バランス良く組み込まれていることが重要であり、討論の中ではお互いの意見を尊重しあい、また、不足している所を補いながら話を進めることが大切だと思う。これからは共に連携を取り合いながら、実務実習を推し進めていかなければならない。
- ・ SGDを実施するグループ分けを配慮してほしい。
- ・ WSから時間が経過しており、内容を忘れてしまっています。色々と人を育てるのに時間が掛かるとは思いますが、自分のように時間の経過とともに内容を忘れていく方も多いと思いますので、アドバンスワークショップや他の手段を介してフォローして頂けると助かると思えます。
- ・ WS で多くの事は学びましたが、具体的に実務実習を動かして行くには大変な準備と勉強が必要でした。そのあたりにも配慮がされたバランスのとれた WS が今後開催されることを期待します。
- ・ WS についてはいいのですが、現在の薬剤師の中には、SGD を経験していない(経験が少ない)人も少なくない。2日間ではなく、1日で体験的にできるようにし、広くひろめたほうがいいのではないのでしょうか？
- ・ WS に参加し実習生への指導の仕方が変わり非常に参考になりました。また機会があれば参加したいです。
- ・ WS に初めて参加した時には、とても新鮮で刺激を受けました。その熱意を継続できるようフォローアップや情報交換がされることを希望します。
- ・ WS の開催数が少ないので多くしてください。
- ・ WS の内容以前に短時間で基礎的な指導教育内容を詰め込ませ、指導薬剤師を育成したとは言うのは少し無理があるような気がします。とりあえずは今ある実務実習に対応できるような実践的な内容の講義を行い、具体的な指導の訓練を行い、薬剤師間の指導内容をある程度均一化することも必要なのではないでしょうか。
- ・ WSへの参加は随分前のことなので具体的に実務実習にどのように生かされたかははっきりしないのですが、WSに参加したことで指導に対する責任と自覚ができたような気がします。WSでは私自身が答えを見つけることにとらわれすぎていて、その目的が理解できていなかったような気がします。
- ・ WS 開催回数を増やすべき
- ・ WS 自体は自己啓発としては、とても有用だと思われますが、実務実習に必要な不可欠という疑問を感じます。
- ・ アンケートが4年後で、忘却の彼方の事柄もあった。継続的な刺激を与えておくことが指導薬剤師にも必要です。
- ・ アンケートが時間がたち過ぎて忘れてる事もあります。できればもう少し期間を空けずに。
- ・ アンケートについて 質問の意味がよくわかりません。想像がつく所のみ記載しました。
- ・ アンケートの実施が遅い、もっと早く調査を希望します。実習された学生の声をもっと現場に反映して頂きたい。
- ・ アンケートは頻回にとってほしい。昔のことで記憶が明らかでない。
- ・ お世話してくださった先生方ありがとうございました。
- ・ お世話になりました。有難うございました。
- ・ かなりテンションの高い場で最初は戸惑いました。自然とテンションのあがっていくような研修である事を望みます。
- ・ グループの組合せを年齢などで分けても、世代ごとに考え方の特徴が出て面白いかもしれないと感じました。

- ・グループワークの時間が長く、2 日目後半になると、意見が出なくなってくるため、コンセンサスゲームなどを 2 日目にも入れていただくと受講する側としては、より積極的に参加できると思われた。
- ・グループワーク等、よい勉強になったがスケジュールが2日間とてもハードだった。
- ・グループの中に大学教員も参加し、受け入れ施設への協力をお願いしたい。
- ・このアンケートの質問が分かりづらかった。また、「該当なし」の項目を設けて欲しかった。
- ・このままでは薬学教育は失敗すると思う。④⑤を早く組み立てて欲しい
- ・このようなアンケートはできる限りなくしてほしい。
- ・このようなアンケートは参加してから時間がたっているのワークショップのことを思い出すのが非常に難しい
- ・これから、薬学部はどこに行くのでしょうか？薬剤師を育成しても既存の仕事だけでは需要はなくなってしまいますけど。薬学領域を拡大して医学、化学、物理学で活躍できる人間を作ったほうが学生のためになるような気がします。勤務薬剤師の将来性は本当に暗いですよ。基本的に学生に英語だけは十分にできなければろくな薬剤師になれないことは大学で教えてあげなければ先々可哀そうです。
- ・これからも 講演、活動をお願い致します。
- ・シートが保護されており入力できないところがあります(保護解除パスワードも知らされておりません)ので入力できるところのみ回答させていただきます。再送のお心遣いは必要ありません。
- ・スケジュールが厳しく感じられた。
- ・すでに記憶があやふやで、完全に回答できず、申し訳ありません。
- ・スモールグループディスカッションを実務実習で生かすことが難しく、現場で実習生一人の場合の有効的な討議の仕方の紹介をして頂きたいです。
- ・そもそも、当該事業についてよくわからないというのが現状です。認定実務実習指導薬剤師の定義、認定母体、今後の方向性が不明瞭であると少々感じております。
- ・タスクフォースの先生方のご尽力に感謝します。
- ・タスクフォースの方々の指導がワークショップを進めるためとても重要だと思いました。
- ・できれば、繰り返しの参加が可能であれば、理解度がさらに深まると思われます。
- ・もう少し実際の実務実習に関わる内容も取り入れることを希望します。
- ・もう少し早い段階でアンケート調査して欲しかった。指導薬剤師は通常業務に加えて学生指導を行い、疲弊しています。このようなアンケート調査も、他の会からの物に何度も対応し、正直認定を取得した損のような状態になっています。もっと窓口を広くして、学生に指導する意識のない他の職員の意識改革を早急に行っていただきたいのが本音です。
- ・もっとたくさんの方が参加できるようになればよいと思います。2 日間朝から晩までは参加が困難なので、2 回にわけていただいただけると助かります。
- ・もっと開催数を増やし、参加しやすくなるとよい(認定薬剤師だけでなく、学生指導にかかわる薬剤師にも参加してもらいたい)
- ・もっと早くに参加したかったです。しかし、参加することで多くの薬剤師が後輩の育成に力を注いでいることを知り、心強くなりました。ワークショップの準備も非常に大変で、参加者も主催者も非常に負担が大きいです。それでも多くの薬剤師が参加し、そして実習の充実、薬剤師の地位や職能の向上のためにも継続的に行うべき活動と感じました。ありがとうございました。
- ・もっと多くの参加が可能になれば良いと思います。
- ・モデルコアカリキュラムを理解するには役に立ったが、実際に実務実習を行う上ではあまり役に立たなかったように思う
- ・やる前は嫌な気持ちでしたが、やってみるととても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・より一層現場で直接有用な内容での WS があると現実味があつてわかりやすいと思います。
- ・ワークショップそのものは非常に楽しかったが、受講しなくても指導内容・方法に差は無かったと思われる。
- ・ワークショップで知り合った方と、実習生を受けている期間に情報交換できる場があるといいなと思います。ワークショップでは、まだ実習生を受けていないので、問題等は想像でしかないので実際に受けている時に起きる問題に対しての他の施設のやり方を教えてもらえると良いと思います。実習生への対応の仕方、等、細かい事でも情報交換できると良いと思います。
- ・ワークショップと実際の業務に乖離があるので、紐付けを充実させた方が良い
- ・ワークショップにてモチベーションがあがったものの、実際に実習にきた学生の質は低かった。4 年卒と変りないばかりか、礼節や常識に欠けた子供であり、年齢的には劣るともいえる。問題解決能力を高める以前の問題があり、大変期待はずれであった。実習に対する意気込みや目的意識はあまり見られなかった。
- ・ワークショップに参加させていただいて、指導する上でどのようにすすめてゆくべきなのか、とても参考になりました。
- ・ワークショップに参加したのが4年も前だったので、思い出すのに難儀した。
- ・ワークショップに参加したのが過去の出来事であり思い出せなかったです。
- ・ワークショップに参加した時点では実際の実務実習にどうつなげていくか、いろいろと模索しましたが、実際に実習が始まってしまうと、日常業務に追われたのが現状です。ワークショップのどれが役立ったか？何に活用したかと思いつくのは難しいですが、いろいろな事が自然に身につけていたのではないかと思います。
- ・ワークショップに参加してから時間がたっているため、あやふやになってしまった点もあります。フォローアップの必要性は実感しています。
- ・ワークショップに参加して初めて医療にたずさわる薬剤師の教育という事が理解出来ました。6 年制の薬剤師の人がこれから医療の現場で活躍出来るよう実習の手伝いが出来たらと思っています。
- ・ワークショップに参加して色々な人に触れあえたのがよかった。追記)上記設問(5)②の選択肢がおかしいです
- ・ワークショップに参加できないために認定をうけられない状況があります。改善はできないのでしょうか。
- ・ワークショップのアンケートですが、できればワークショップ直後に記載させてほしかったです。
- ・ワークショップの意味・意義を十分理解出来るようにしてほしい。
- ・ワークショップの回数を増やし、大勢の薬剤師が早期に認定の手続きを終え、多数の職場で実習生を受け入れてい

ただけよう希望します

- ・ワークショップの回数を増やして、もっと多くの実務実習薬剤師を養成することが必要と思われます。実習に携わる薬剤師は全て指導薬剤師になってほしいと思います。
- ・ワークショップの開催回数が少なく、指導薬剤師養成のニーズに対応できていないことが問題と考えます。内容とともに、開催回数についても検討していただければ幸いです。
- ・ワークショップの開催数を増やして多くの薬剤師が参加できればよいと思います。
- ・ワークショップの参加は、気持的に大変であるが、大事なことであった。ただ、2回3回と頻回に行った場合、場慣れや定型の流れにつながるとわれ、それが有効かどうか不明である。時間を空けてから、再度ワークショップと現実のギャップ等について議論すると良いと思われる。
- ・ワークショップの参加者をもっと広く募れるよう、タスクフォースの先生の育成もしてほしいです。
- ・ワークショップの参加人数や開催を増やしていただきたい
- ・ワークショップの内容と、実習現場の内容が一致していない。ワークショップで行っていることは理想であり、現場はその理想内容を行うことは現実的ではない。実務実習は大切と考えるが、ワークショップの内容を実践するほど時間的・人力的に余裕がないと考える。
- ・ワークショップの必要性は認識していますが、理想を実際の実習に反映させる事はなかなか難しいです。3年前のワークショップについて質問がありましたけどほとんど記憶になかったので申し訳ありませんでした。
- ・ワークショップは、参加した直後はとても刺激になってやる気が高まってとても良いと思う。ただ、時間が経過し実際に実習生を受け入れると、思い通りに行かず理想と現実のギャップで精神的にも肉体的にもつらくなる。カリキュラムも多すぎて、理想とする実務実習指導は通常業務との掛け持ちははっきり言って無理！やる気がうせてしまう。
- ・ワークショップは2年前に参加させて頂いたので、内容を思い出せない部分があり、アンケートに正確にお答えできず申し訳ありません。
- ・ワークショップは楽しく参加できたが、学んだ内容を実際に使うことはまだない。
- ・ワークショップは楽しく参加できたが、学んだ内容を実際に使うことはまだない。
- ・ワークショップは楽しく参加できたが、学んだ内容を実際に使うことはまだない。
- ・ワークショップは個々の薬剤師のモチベーションや教育手法の根幹部分を育成するのに役立つが、具体的な実務実習の内容に踏み込んだものではないので、ワークショップが直接実務実習に役立つという感覚にはならないです
- ・ワークショップは参考になりました。ありがとうございました。
- ・ワークショップは私の指導に対する考え方を大きく変え、正しい指導の方法を教えてくださいました。ありがとうございました
- ・ワークショップは自分の薬学教育への知識の向上や実習への取組に対してはとても参考になりましたが、実際に業務に活用できるかという点では、なかなか無理があると感じました。
- ・ワークショップは職種別に開催してほしいです。
- ・ワークショップは非常に時間がかかるので、実施するのであれば大きな成果が得られるような内容が必要である。
- ・ワークショップは必要だと思うが、各大学での事前実習は

見学するまで4年制のときとどう違うのか理解できなかった。ワークショップ実施は縮小されているが、今後実務実習継続するにあたっては次の指導薬剤師を育てる必要があるのもう少し実施枠を増やして欲しい。

- ・ワークショップや講義が実務実習に直接役立っているとは思えません。このアンケートも過去の記憶テストの様で忙しい認定実務実習指導薬剤師の業務に更に負担を掛けナンセンスです。今後はこのようなアンケートをしないようご配慮をお願いいたします。
- ・“ワークショップをディスカッションの練習と考えるのかプランニングの練習と考えるのか微妙であるが、前者であるならばもう少し余裕が欲しいと思います。後者であるなら、やり方を変更した方が良いと思います。
- ・役員の方も時間内におわらせてくれようと頑張っていたいたのですが、時間的にも無理があるのではないかと考えました。”
- ・ワークショップをもっと行って認定実務実習指導薬剤師をふやしてほしい、でないと将来がゆきずまる。
- ・ワークショップを活かして、出来るだけ学生に考えさせる実習をめざして取り組んでいます。今後も指導する側のモチベーションが下がらないように、勉強の機会を与えていただけたらと思います。
- ・ワークショップを経験してから、時間が経過してのアンケートであり、不明な点が多かった。
- ・ワークショップを行う回数が少ないため、ワークショップ待ちで実習施設になれない施設が多いように思う。
- ・ワークショップを受けたのは3年前であり、あまり記憶していないことがある。
- ・“ワークショップを受けてから、実習生を受け入れるまで、3年の期間が過ぎて、モチベーションも下がっていた。
- ・現在実習中であるが、ふる里実習で毎年実習生が来るので、次年度はワークショップで得られた研修内容を盛り込んで、充実していきたいと思う。”
- ・ワークショップを終えてから実務実習まで間があり、ワークショップの内容をあまり思い出せない
- ・ワークショップを通して、自己研鑽できた、多くの薬剤師に参加して欲しい。
- ・ワークショップ参加より時間がたっているため、今アンケートは難しい項目もありました。(講演内容等忘れていた為)
- ・ワークショップ参加後は知識・理解・意欲ともに高くなっていったが、時間経過とともに低下しているのが自分の反省点です。実習生に十分な教育ができていくか自信がありません。実務を行いながら、理想どおりの教育を行うことは難しく感じます。理想と現実をどの様に折り合わせていくか試行錯誤しています。
- ・ワークショップ自体は、薬剤師・大学教員の方とのつながりができて、様々な意見を聞くことができ有意義だった。
- ・ワークショップ自体は受け入れ準備として有用だと感じたが、実務実習で十分に活かせるかは疑問である。
- ・ワークショップ受講なしでも認定実務実習指導薬剤師の資格を与えるようにして欲しい。施設内に1名の場合、毎日の指導・評価・記録等負担が大き過ぎると思う(休み・当直明けの翌日は記録が2日分、3日分と溜まってしまう)。
- ・ワークショップの開催回数を増やして欲しい
- ・以前と最近のワークショップの内容は変わっているのかわかるか。
- ・以前に受講しているので今アンケートを取るのはいく
- ・以前より福山大学において、修士2年生を対象に実務実

- 習よりも密度の濃い実習をしていて、それを受け入れていた。w.s.よりも、そちらの経験とノウハウのほうが役に立っています。
- ・意見ではないが、②のうえ二つは同じことば？ワークショップに行ける機会の均等化が望ましい。
 - ・意見交換の場を提供していただけるとありがたいです。
 - ・意欲に燃えるたくさんの方が参加されていて刺激になりました。もっと実際に役立つスキルを教えて欲しかったです。
 - ・医師向けの同様の指導者向けWSを受講したあとだったため、とても温い研修に感じました。
 - ・医療人としてのモラルが認識できる内容。
 - ・一度だけではなく、繰り返し勉強できる機会があると有り難いと思います。
 - ・一般公募で参加できるワークショップを年1回開催してほしい。
 - ・一方的な座学ではなく自分たちで考えることが中心の形式のため、充実した研修でした。
 - ・運営していく側(ディレクター、タスクフォース等)のパワーが頂けてよかった。ありがとうございました。
 - ・何度か繰り返しワークショップに参加できればよいと思う
 - ・可能ならば同じメンバー間で意見を交わす機会があれば、今後の実務に生かせることも見えてくるかと思う。
 - ・会場が遠く参加にはじめは抵抗がありました。長岡でも実施していただけるとありがたかったです。
 - ・会場が他県であると時間が取り難い可能性があるため、1日で終了する内容がいいです。カリキュラムプランニングでは、全く関与していない業種の場合は、業務内容が分からず意見を出し難い方もいましたので、共通する内容があればいいと思いました。
 - ・センサスゲームをすることにより初対面でありながら意見を出し合えたことは良かったと思います。
 - ・会場に制限があるので、予定を早い段階で組んでいただけると良いかと思えます。
 - ・開局薬局が中心のテーマも良いのですが、もう少し病院薬剤師のテーマがあってもよいのではないのでしょうか。
 - ・開局薬剤師の話を知ると、多くの場合失望するので病院薬剤師のみでワークショップを開催してもらいたい。
 - ・開催の回数・場所が少なく、申し込み方法がわかりにくいいため参加への敷居が高いように感じます
 - ・開催回数を増やしてほしい。スタッフを参加させたくても参加できない状態になっている。
 - ・各施設での学生教育において工夫している取り組みやトラブルが発生したときの対応についての報告会、意見交換会があると参考になります。
 - ・各施設の実習内容を情報交換できる機会もあれば良いと思う
 - ・各施設の特徴ある実習取り組み例を、紹介してほしい。
 - ・学生と大学、病院をつなぐ記録媒体の統一化について、何とかして欲しい！(ワークショップで云うことではないかも?)
 - ・学生の行なうSGD(症例検討)に現場の薬剤師も参加してみると面白いでしょう。
 - ・学生も参加させてはどうか。
 - ・学生間で知識やスキルの差が大きい場合にどのような対応をすればよいか討議してみるのもよい。
 - ・学生側からの意見を聞けたらと良いと思います。
 - ・楽しく学べるワークショップを目出すべき。
 - ・慣れないワークショップで戸惑うこともあったが、全体的には自分の意識改革という意味合いがあったように思う。実習前にワークショップを受けておいてよかったと感じた。
 - ・慣れない用語がわかりにくい SBOs.LS.GIOなど もっとわかり易い言葉にならないか
 - ・簡略化。
 - ・教える側と受講側とのニーズのマッチングを行わないと押し付け教育になる(教える側の満足で終わってしまう) 主役は学生です。
 - ・教育というものを知らない私たちにとって知っていてもよい理論なのかもしれないが、実習は実際の業務のなかでカリキュラム内容がこなせるように組み込んでいく方法をとらざるを得ないため、あまり役立ったという印象はない。
 - ・教育における目標、方略の設定、評価は、実務実習の時ばかりでなく、日常業務や社会生活においても非常に重要であった。また、他の職場の薬剤師との情報交換も行うことが出来、ワークショップは貴重な経験であった。今後、地域単位のアドバンスワークショップが開催される時には、ぜひ参加したいと思う。
 - ・教育にはいろいろな手法があると思います。折角行うのであれば、より広く紹介すべきだと思います。ただし、それらは一つの方法にすぎないことを理解すべきです。最近はコーチングがはやっていますが、本を読んでも従来と大きく変わったわけではありません。方法を知っていることは有用ですが、それだけではうまくいきません。
 - ・教育に関して大学の教員と薬局薬剤師、病院薬剤師の意見交換の時間を作る。
 - ・教育者としての自覚をもてるワークショップにしていきたい。(教育学の充実)
 - ・教育手法を学ぶというために必要な研修であると理解したが、実務実習に生かされているかどうか不明に感じる。むしろ実際に実務実習中に発生した事例をもとに研修内容を深めていくほうが実践的ではないか?
 - ・経費につき、協議会または調整機構でご負担頂ければによりです
 - ・結果論ですが実務実習と直結した内容でなくとも、教育という観点での研鑽になれば良いと思います。
 - ・現行のワークショップが指導者の育成に関し、有効な方法であると思えない。
 - ・現行のワークショップは実際の実習に即した内容とは思えない。
 - ・現在の内容では行う必要は無く、座学のみで十分と思います。行うとすれば実例の事例検討など
 - ・現時点で希望していても受講できない薬剤師が多数いると思います。この講習は実務実習に関わる人全てが受講した方がいいと思うので、受講時間を短くし、内容をつめて、受講できる人数を増やすべきだと思う。
 - ・現場で実行可能な方法を具体的に教えていただきたい。
 - ・現場の環境、目標等と合わないところ、また当院に時間的余裕もないため、この教育と医療機関との差異を感じる。
 - ・現場はおそらくどこも時間がないので、拘束時間は短いほうがよい。
 - ・現状でよいと思います。
 - ・現状のままでは参加したくない
 - ・個人的には参加して面白かったのですが、近隣の薬剤師には不評でした。もっと具体的に「こうする」といった、速、利用可能なものを求めているようです。特に調剤薬局の薬剤師は、一人薬剤師の店舗だと、店を閉めて参加しなければならなかったり、現場の指導時に使えないものだったり(例えばスモールディスカッションをさせたくても、受け入れ学生が一人だけだったり)といった事が不満の様でし

- た。
- ・講演や学習の仕方以前の、教育者として身につけておくべき教育の手技や心構えがいまいち学べていないような気がします。AHA(アメリカ心臓協会)のBLS・ACLSインストラクターが必ず受講するCICコース(コoinsストラクターコース)のようなもの(教育者とはどうあるべきかをロールプレイしていくコース)のようなものを作ってほしい。
 - ・講義内容以外にも他職場の薬剤師から多方面の意見・考え方が参考になり、見識が深まり有意義なWSでした。
 - ・今回のアンケートは、WS受講年があまり古い人にはそぐわない気もします。記憶もあいまいなところがあったり、タスクのスキルも向上してきていると思いますし、内容は変わっているのか？総合的にWSは、今いる薬剤師には必要だと思います。
 - ・今回のワークショップに参加して、印象に残るものとなりました。この経験を活かし、受け入れる実習生に印象に残る実習となるよう努力していきたいと感じました。タスクフォースの方々を始め、たくさんの方の協力によってこのワークショップに参加できたことを大変感謝しております。是非今後も継続して欲しいと思います。
 - ・今後、新規の指導薬剤師養成とともに、今資格のある薬剤師に対しての講習や色々な検討の場を行ってほしい。
 - ・今後のワークショップのテーマとして、「6年制が始まって変化したこと(学生、学部、現場、社会)」、「コアカリキュラムの実施上の問題点と対策」、「6年制薬学生が求める薬剤師像と今後求められる薬剤師」など。
 - ・今後も引き続きワークショップの開催に頑張っていたきたいと思います。
 - ・今後も継続してほしい
 - ・今後実務実習をおこなった上で問題点を持ち寄り情報の共有や認識・解決策をはかるようなカリキュラムを追加
 - ・座学を受講しても、WS受講人数・開催回数が少なく、当院にその枠が回ってこない。
 - ・最初に認定を受けた人たちは、確か6年の資格任期となっていたように記憶していますが、数年後に一斉に資格が切れますが、その後はどうなるのでしょうか？
 - ・参加人数がかぎられていることが残念である。病院薬剤部では、皆で携わるので、皆に受講の機会がほしい。
 - ・参加人数が制限されてしまうので他県の開催地でも参加できると良い。
 - ・参加枠が少ないので増やしてほしいと思います。(当施設には4-5回参加を見送られている薬剤師がいるので)
 - ・指導の基礎は現状のワークショップで良いかもしれないが、今後は個々の環境や職域に特化して指導の質向上に寄与できるものにして欲しい。
 - ・指導薬剤師になるためのワークショップ等の参加条件は、医学部も同様なののでしょうか？この条件が適切なかどうか検証することも忘れていけないと感じています。
 - ・指導薬剤師に対するWS後のフォローが欲しい
 - ・指導薬剤師を目指す方々にも参加してもらえるような、実際にSGDを行ってみるような実技を伴ったものが良いと思います。
 - ・指導薬剤師養成の位置づけが明確になるようにして欲しい
 - ・指導用のパワーポイント等をもらえるとありがたい。
 - ・私がワークショップに参加したときは、まだ実務実習が始まっていなかったのので、ワークショップで何をやってたかわかりませんでした。たぶん、これからワークショップに参加される方のほうがよく理解できると思います。すべての薬剤師が参加したほうが良いと思います。
 - ・事前にもう少し理解をした上で参加の方がより身についたよう思われた。
 - ・時間が経っているので正直思い出せないことばかりでした。申し訳ありません。
 - ・自分たちが実施している実務実習がこれでよいのか比較し、評価することが出来ないの、他病院などの状況を知ったり、見てみたい。
 - ・実際、このワークショップって必要なのでしょうか？時間の無駄では？
 - ・実際に実習生を受け入れてみて、大学教員、学生の間で意識の隔たりがあるのを感じています。お互いに実情が把握できていない。その溝が埋まらないことには実習受け入れを続けるのは難しい。
 - ・実際に受け入れてみて、大学側が何を求めているのか不明瞭になりました。また、悪い意味ではありませんが、担当教官以外の先生の実務実習の方向性がよくわからなくなりました。3カ月で一体何者を育てればよいのか、従来よりも2年も多く教育をうけなければならない薬学生にどんなメリットがあるのか？4年で卒業して、実務に2年就いたもの。修士に二年費やしたものに現在の6年生は何も勝てない状況だと思います。かわいそうです。
 - ・実際の学生指導時にはバイアスが強く思ったように進めないこともあり、大学側の事前講義についても知りたい。
 - ・実際の業務内で実習を行うことは、WSで学んだことがあまり活用できずに業務と実習におわれてしまいます。
 - ・実際の現場とは少し理想が高いところでの内容が多いので、もう少し現実論的な内容にも言及して欲しいです
 - ・実際の病院や薬局に来る人数は少ないと思います。そこでいかに効率的に自己実習を行う環境にするか、指導者がどの様にアドバイスすればいいかを具体的に学んでみたい。
 - ・実際指導に関わっているワークショップ未経験薬剤師に機会が多く欲しい。
 - ・実習が実習生のためになっているのか、そのためのワークショップになっているか、新たな問題点があるとすれば今後ワークショップを終えた人への追加・またワークショップで十分理解できなかった人への追加フォローがあるか気になっている。
 - ・実習に期待する大学側の本質に疑問をもつことがあります。私達は何を行うべきか理解に苦しむこともあります。
 - ・実習指導薬剤師としてだけでなく、「WSに参加する」とこのみを目的とした場合でも、2日間で様々な体験ができ、有意義なWSでした。今回のような内容・規模のものであれば(内容は考慮せず)今後も参加してみたいと思います。また、WS受講(2011年8月)直後のため、空欄・その他無回答とさせていただきます。
 - ・実習生を指導する薬剤師を認定制度にするのはおかしいと思し、ワークショップの必要性がわからない
 - ・“実習生を受け入れてみて、WSで学んだ内容は残念ながらあまり生かされなかったと感じる。
 - ・まず薬学実習のSBOS・LSは業務の流れのなかで区切るの難しく、実習過程ではなく最終結果で判断することが多くなる。
 - ・様々な教育用語・教育訓練は新鮮だったが、実務との並行では無理がある。
 - ・WSを受講することで自分のモチベーションが上がったが、結果として講義内容はほとんど生かせなかったの、今後

同様のWS 継続はどうか？

- ・大学の事前実習を見学・体験するほうが価値があるのではないか？
- ・病院以外の薬剤師さんの意見を聞いた以外は収穫はあまりなかった。”
- ・実習生を受け入れて感じる事は、調剤薬局で何を実習してきたのか？です。はたして3ヶ月の実習が必要でしょうか？逆に病院は3ヶ月で充分なのでしょうか？ワークショップで教育に対する考え方の再考をお願いいたします。
- ・実習費に施設ごとに大きな差があります。金額の高いところのカリキュラムや日誌を提示してほしい。
- ・実習病院によって指導レベルや指導内容がかなり異なると思いますが、今後、指導内容を統一していくプランを作成してほしいです。
- ・実務にねざした実習をめざす
- ・実務実習が開始されている今、もう一度参加するとずいぶん理解が深まるように思います。
- ・実務実習について、学生とともに考えるワークショップがあってもよいと思います。実習中には、学生の素直な気持ちを聞くことが難しいので。
- ・実務実習に対する大学の取り組みなども詳細にわかって有意義だった。
- ・実務実習の各施設における実施状況について教えていただきたい
- ・実務実習の各施設における実施状況について教えていただきたい
- ・実務実習の各施設における実施状況について教えていただきたい
- ・実務実習の実施内容をもう少し具体的内容に教えていただきたい
- ・実務実習を行うことでの成果を返して欲しい。現場のモチベーションのためにも。
- ・実務実習を行うこと自体意味あることなのかよく理解できない。
- ・実務実習受入れた施設の薬剤師(指導認定の有無に拘らず)や他職種スタッフも交えて、実習に対する本音をテーマにSGDを開催してみても如何。
- ・社会人として勤務している薬剤師全員に対し 6 年制の教育がどう行われ、どのようなシステムで 6 年制を教育するのかを教えるべきだと思います。勤務年数・年齢に関係なく、希望者には平等にそのような場を設け、最低限ワークショップだけでも参加させて欲しい。
- ・受講したのがずいぶん前なので忘れていた事項が多いようです。
- ・受講してから時間がたち、内容についてよく覚えていないことが多く、今のこの時点でのアンケートへの回答は無意味のように思う
- ・受講して約3年経過しているため忘れてしまった部分があります。
- ・就職して20年余りが経ち、教育的な知識もほとんどなかったもので、ワークショップの内容は十分に理解しきれなかった。実務にどう生かしたらいいか具体的に結びつけるのも難しい。上司がカリキュラムを作成してくれたのでよかったです。ワークショップに参加しても認定薬剤師としては未熟で負担も大きく、施設全体で必死に実務実習に取り組んでいる。
- ・従来の見学ではなく、参加型で目的型の実習が大切であることがよく理解でき、考え方も変わったので大変有意義でした。
- ・初期の目的は達したと思うので、参加方法、参加者、内容等を変えていくことが大事だと思います。
- ・色々なことを教わり、実際にはその通りにはできなくても、考え方として、皆の意見を吸い上げる、緊急性・重要度を考えて課題に取り組むなど、十分通常の業務に役立ちました。また、教育とは「学習者の行動に価値ある変化をもたらすこと」という言葉が大変心に残りました。ありがとうございました。
- ・是非参加したいと願って訴えかけていたが2年以上待たされた。
- ・絶対的な開催回数が少ないのではないかと思います。
- ・専門的な略語等については、意味を含めた事前にプリント等で解説を行うと理解しやすい
- ・早く携わる全部の薬剤師が受講できるとよいと思います。何かしら感じるものがあると思います。
- ・窓口が狭い
- ・他の薬剤師にもワークショップを受講させたいが、申し込んでも開催回数が少なく人数が限られているためか、なかなか受講できない。
- ・他職種(薬局・病院・大学教員)が意見を交換できる数少ない機会であるので、是非続けて欲しいと思います。
- ・他病院、他薬局との交流の場としては良い機会であったと思う
- ・多くの中小規模の病院では、時間的・人間的な制約から、ワークショップで学んだ内容を十分に実践していくことが、容易なことではないと思いました。
- ・大学と病院との連携について、もっと内容を充実させてほしい
- ・大学教員、薬局薬剤師、病院薬剤師が意見交換する場としても有意義だったと思います。
- ・大学教員と受け入れ施設側の意見交換の時間ももっとあればいいと思いました
- ・大学教員と病院薬剤師の参加型。意見交換をし現場の状況把握を大学教員にもっと理解してもらい大学教員も病院に来て学生の面倒を見てもらいたい。病院職員は、患者さん優先であり業務繁忙時は、自習になるため大学教員に病態、疾患などの解説などしてもらおう希望する。
- ・大学教員にもっと参加して頂きたいと思います
- ・大学側と実習受け入れ側の温度差の調整
- ・短期間の講習なので、振り返り学習ができるように Eーラーニングで研修したい。
- ・調査の対象を直近のWS受講者とされた方が精度の高い回答が集積されると考える。
- ・長期実習を行って卒業しても、薬剤師スタッフが少ない施設では、チーム医療に参加するには経験が必要で、調剤業務とのやりくりが問題です。
- ・直接指導している薬剤師が指導薬剤師とは限らないので、受講内容を絞り込み受け皿を広げるのが良いと思います
- ・土日行うので参加が難しい人も多い。時間を分けることなども考慮してほしい。また、終わってから継続して参加できるようなプログラムも希望します。
- ・当院では、実務実習の受け入れ体制はできているのですが、残念ながら実習生が1名来たきりです。地方の病院では実習生確保も困難な状況です。そのため、今回のアンケートにおいても十分な回答はできませんでした。もう少し実習生が受け入れられる体制になることを望みます。
- ・当院はまだ恵まれている方だと思いますが、なかなかワークショップを受ける順番が回ってこない。もう少し効率化して大人数を受け入れられればもっと多くの薬剤師が認定

- 実務実習指導薬剤師になれると思う。ただ、大人数にすれば質が落ちる？ことにつながるのかわからない。
- ・ 当院は現在 1 名の認定者しかおりません。ワークショップの参加人数は増員できないのでしょうか？
 - ・ 統一された学習方法を学ぶという点で、有意義だった。しかし、学生実習においてこの内容をすべて実践するのは難しく、大学間や施設間の差もあります。今後、理想と現場との歩調を合わせられるようにしていただきたいと思います。
 - ・ 同じような内容を数年間繰り返しているように見える。1~2年単位で新しい内容で取り組んでほしい
 - ・ 導入部分として一定の効果はあるが、継続的でない限り効果は目減りするのではないかと？
 - ・ 特にありません。非常に役立つ内容だと思います。これからもよろしくお願ひいたします。
 - ・ 難しくはないがカタカナ語が多すぎて、このアンケートの中でも何のこたなのかももう一度ワークショップ資料を読み返さないといけなかつたり大変でした。
 - ・ 日進月歩、最新の情報を取り入れながら、修正・改良を加えたワークショップとすべき
 - ・ 日程的にハードではあったが、有意義な研修でした。
 - ・ 認定を受けた指導薬剤師からの教育も限界があり、参加出来ない方にも教育を受ける機会が必要と考えます。
 - ・ 認定後のフォローアップがあると更に良いのでは。そう言う意味ではタスクフォースとして参加するとWSの趣旨、意義が理解できると考えます。
 - ・ 認定実習指導薬剤師になるためにワークショップに参加しなければいけないのは、条件として難しいと思ひます。多くのスタッフに認定を取って頂きたいですが、ワークショップに参加できる人が限られます。
 - ・ 認定実務実習指導薬剤師を取得したことによって、業務が増えた。実務経験5年以上の者は全員取得を義務づけるぐらいにしないと、取得者の負担ばかりが増えるように思ひます。
 - ・ 認定実務実習指導薬剤師取得の律速になっている状況を改善してほしい
 - ・ 認定者の再教育(交流)の機会があつたらいいと思ひます。
 - ・ 熱心な参加者に負担がかかっている。WSを受けたことで受けていない同職者との知識の隔たりが強くなった。
 - ・ 年に3~4回WSを開催してほしい。
 - ・ 年間の開催回数を多くしてもらいたい。
 - ・ 年間の開催回数を多くしてもらいたい。
 - ・ 濃密な研修はいい意味で大変刺激になりました。
 - ・ 費用対効果のバランスを考慮したほうがよい。講師謝金とか、多額すぎます。
 - ・ 評価の仕方について自分なりの考えはあるが、形成的評価という概念が、現場で直接指導を行う薬剤師に理解されにくく、また評価の基準をどのようにしたら良いのかということについてかなり疑問を寄せられた。評価を行う施設ごと薬剤師個人ごとに評価は違つてしまつますが、もう少し相互に共通認識を持てるようになるためのアドバンスワークショップが開催されるとよい。
 - ・ 病院薬剤師だけで、薬局薬剤師だけで行うワークショップがあればいい。
 - ・ 病院薬剤師による病院実習の意見交換会などあれば良いと思ひます
 - ・ 病院薬剤師の参加人数枠を広げてほしい。各県で2回/年は開催してほしい
 - ・ 病院薬剤師の参加人数枠を増やしてほしい。
 - ・ 病院薬剤師の参加人数枠を増やしてほしいと思ひます
 - ・ 病院薬剤師の参加枠が少ないので増やしてほしい ワークショップ受講から4年ほどたつておりアンケートの回答があいまいになってしまいました
 - ・ 病院薬剤師は仕事内容が多岐に分かれている(チーム医療・病棟業務・各種委員会・院内製剤・DI 業務)ため、まず第一期を調剤薬局にて基本的調剤実習を行い、第2期にて病院実習を行ったほうが効率的である。実習内容の分担が必要。
 - ・ 分刻みのスケジュールに 実戦参加している実感がわき、充実していました。
 - ・ 平成15年12月だったため、記憶が薄れています。申し訳ありません。
 - ・ 勉強にもなり、意識も向上したとは思ひますが、もともと休日が少ない中、まる2日休日を取られるのは個人的には負担が大きく感じます。
 - ・ 毎年改善していくワークショップが必要だと思います
 - ・ 模範解答が先にあり、それに近づくようにタスクフォースの方に誘導された感が強かつた。(自分たちの力不足が原因なのだが)
 - ・ 問題解決の手法を学習でき、非常に良かつたと思ひます。再度復習する機会があれば良いと思ひます。
 - ・ 薬学教育についての知識の習得の機会としても、ディスカッションのトレーニングとしても、非常に有意義で充実した研修でした。実際の業務に反映させるまでには至っていないところも多々ありますが、今後の学生実習や職場での後輩の育成などにきつと役立つと思ひます。ワークショップが今後も継続されることを望みます。
 - ・ 薬学実務実習は本来教育機関ではない開局薬局や市中病院等が大学の卒前教育の一部を担うカリキュラムである(もちろんこれには賛否両論があるが、ここで議論すべきことではないため詳述は避ける)。従つて、大学教育としての水準を確保するため現在のワークショップの様に教育学の概念も学習する必要性は有ることは理解出来る。しかし、残念ながら私が受講したワークショップではあまりに教育学の修得に時間が掛けられすぎており、どのようにした場合に学生の満足度が向上するか、といった実務実習において最も大切な部分が欠落していた印象は否めない。今後のワークショップではこのような点が改善されることを祈るばかりである。
 - ・ 薬局・中小病院・大病院に分かれてのディスカッションもあつたほうが良い(現状の把握がしやすいので)
 - ・ 薬局と病院の構成比がもう少し平等になつたらよいと思ひます。
 - ・ 薬局薬剤師と病院薬剤師が一緒に行うワークショップは、お互いに理解できない部分が多い。
 - ・ 薬剤師としてのモチベーションを維持するためにも必要で有意義な内容だと思います。ただ、意見の異なる反対勢力に対して、見放さず、最後まで理解を求め説得する事を必須とする半面、評価によって不適切と判断したり、講義をするにあたりパワーポイントではなく、OHPを使用しなければならぬ等、まだまだ自分には理解できない部分があります。
 - ・ 優秀カリキュラムの紹介と個々の病院あるいは薬局のカリキュラムの評価を行つて欲しい。
 - ・ 有意義なワークショップでした。タスクフォース、コンサルタントの方々もすばらかつたです。
 - ・ 有意義に参加できましたし、得るものも多かつたです。

- ・ 様々な施設の方々とコミュニケーションがとれるいい機会であると思う

薬局薬剤師からの回答

(【 】内はアンケート調査票の回答記入枠を示す)